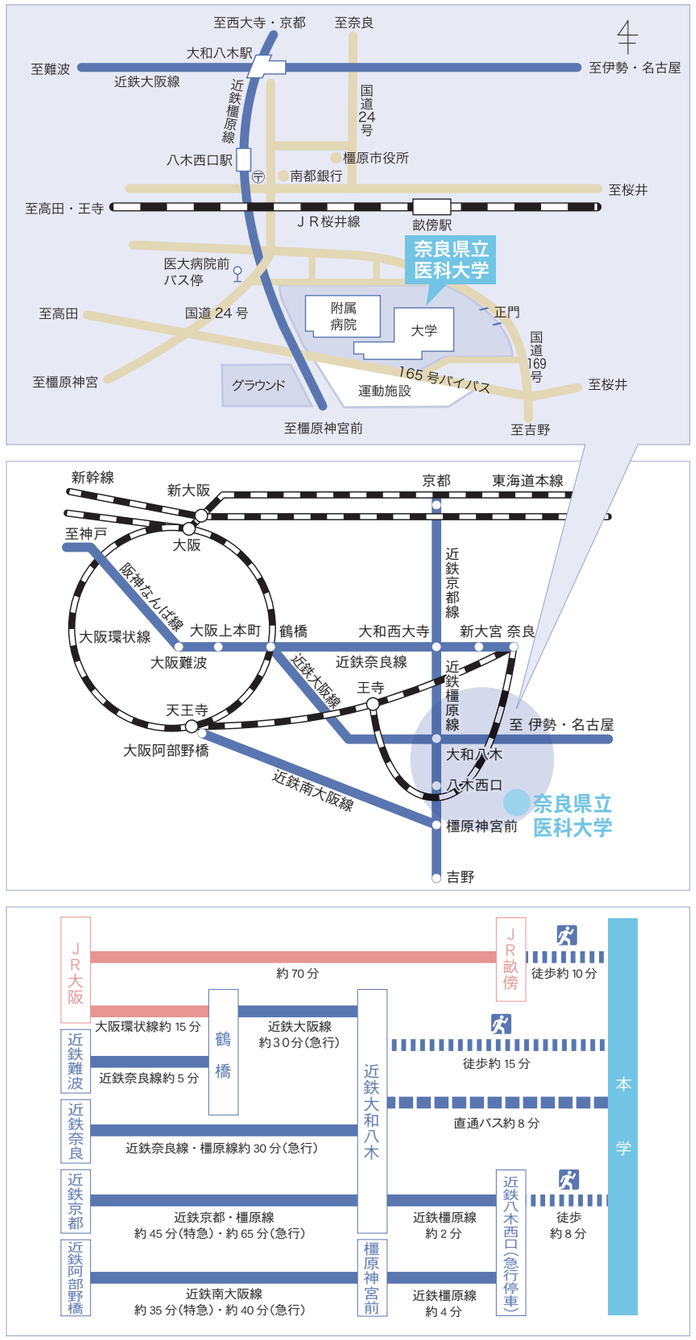
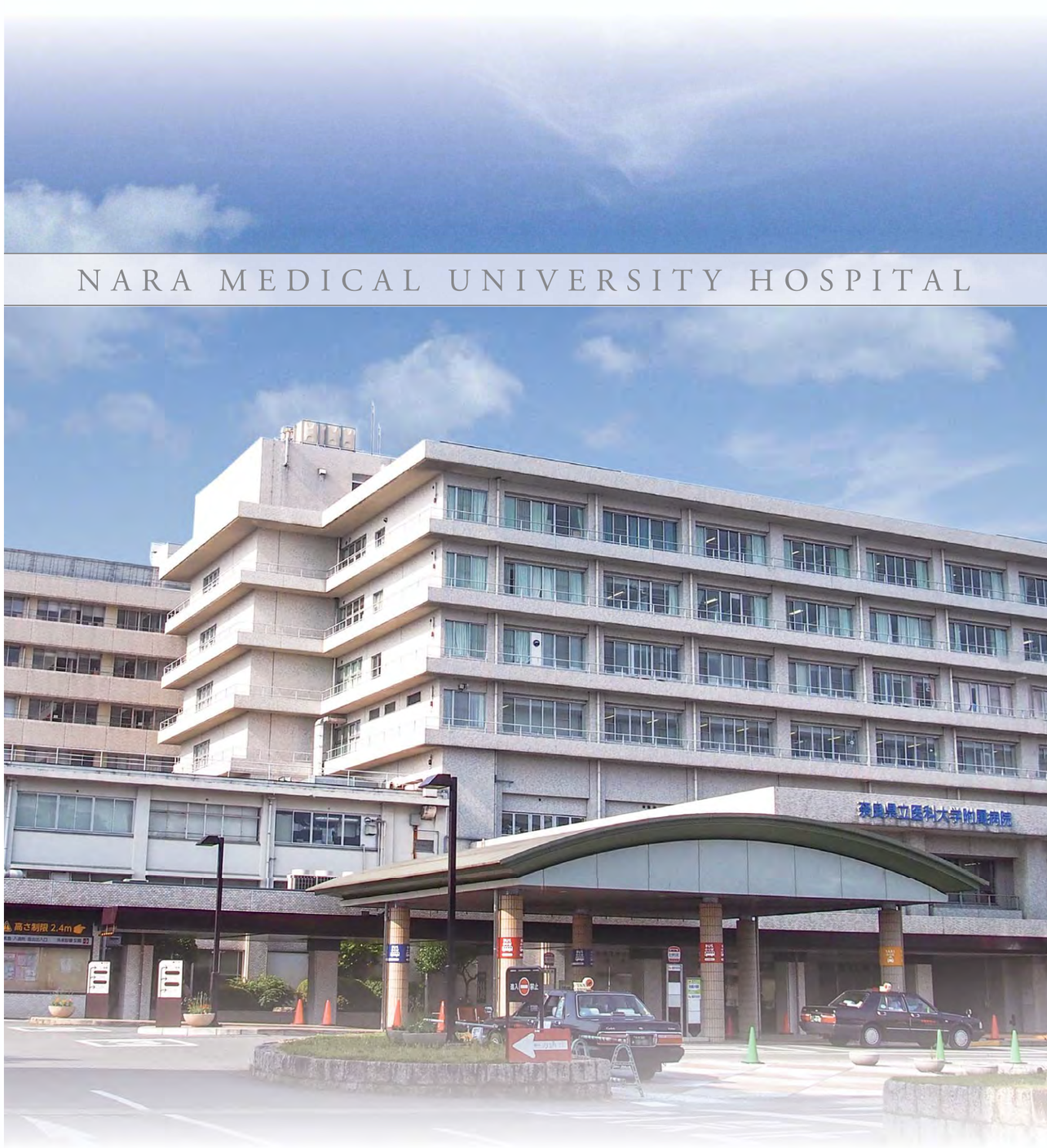
Access



奈良県立医科大学附属病院
〒634-8522 奈良県橿原市四条町840番地
Tel.0744-22-3051(代表) Fax.0744-22-4121
URL http://www.naramed-u.ac.jp/~hp/

平成28年9月 3,500部



奈良県立医科大学附属病院 案内

奈良県立医科大学の理念

Idea of Nara Medical University Hospital

本学は、医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度な研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与することを理念とする。

□奈良県立医科大学附属病院の理念・基本方針

理念

1．医の倫理にしたがい、安全で質の高い先進の医療を提供し、県民から信頼される病院を目指します。
2．医療の質の向上に努め、地域のニーズにあった診療体制を確立し、安心の得られる医療を目指します。
3．人権を尊重し、人間味豊かで信頼される優れた医療人を育成します。

基本方針

- 病状や治療方針を分かりやすく説明し、安全で質の高い医療を提供します。
- 高度で先進的な医療を提供します。
- 医の倫理にしたがい、患者さんの意思と権利を尊重し、心の通い合う医療を提供します。
- 県における基幹病院として、地域の医療機関との連携を図り地域医療に貢献します。
- 臨床教育を充実し、人間味豊かで県民から信頼される優秀な医療人を育成します。

病院の沿革

Hospital history

昭和20年 4月	奈良県立医学専門学校附属病院開設（8診療科215床）
昭和22年 7月	奈良県立医科大学附属病院に名称変更
昭和32年 4月	県立橿原診療所、県立橿原精神病院を統合（642床）
昭和56年 9月	附属病院本館（A病棟）竣工
平成 8年 2月	特定機能病院の承認を受ける
平成 8年11月	基幹災害拠点病院の指定を受ける
平成 9年 3月	附属病院第二本館（B病棟）竣工
平成13年 4月	オーダリングシステム（医療情報システム）稼働
平成15年 9月	高度救命救急センター設置
平成15年10月	附属病院第二本館（C病棟）竣工
平成15年10月	感染症センター設置（11月第一種感染症指定医療機関の指定）
平成18年11月	精神医療センターを開設
平成18年12月	電子カルテシステム稼働
平成19年 3月	エイズ中核拠点病院に選定される
平成19年 3月	精神科救急医療施設の指定を受ける
平成19年 4月	地方独立行政法人「公立大学法人奈良県立医科大学」へ移行
平成20年 2月	都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受ける
平成20年 4月	感染制御内科を設置（22診療科となる）
平成20年 4月	肝疾患診療連携拠点病院の指定を受ける
平成20年 5月	総合周産期母子医療センターを開設
平成21年 6月	総合相談·がん相談窓口を開設
平成22年10月	小児センター及びメディカルバースセンターを設置
平成23年 5月	病院機能評価（Ver6.0）の認定を取得
平成26年12月	形成外科及びリハビリテーション科を設置（24診療科となる）
平成27年 4月	病理診断科を設置（25診療科となる）
平成27年10月	呼吸器外科を設置（26診療科となる）
平成28年 9月	附属病院E棟竣工

病院の組織

Organization of hospital

平成28年6月1日現在

□診療部

26診療科・992床（一般865・精神108・感染9）

循環器・腎臓・代謝内科、呼吸器・アレルギー・血液内科、消化器・内分泌代謝内科、感染制御内科、神経内科、消化器外科・小児外科・乳腺外科、脳神経外科、心臓血管外科、整形外科、歯科口腔外科、産婦人科、眼科、小児科、精神科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線科（画像診断·IVR）、放射線治療・核医学科、麻酔科、救急科、総合診療科、形成外科、リハビリテーション科、病理診断料、呼吸器外科

□中央診療施設

（9部・19センター・3室）

中央臨床検査部、輸血部、中央手術部、集中治療部、中央放射線部、中央内視鏡部、透析部、病院病理部、医療情報部、高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター、感染症センター、精神医療センター、腫瘍センター、緩和ケアセンター、移植細胞培養センター、小児センター、メディカルバースセンター、ペインセンター、リウマチセンター、糖尿病センター、先天性心疾患センター、周術期管理センター、IVRセンター、入退院管理センター、玉井進記念四肢外傷センター、総合画像診断センター、めまいセンター、中央材料室、遺伝カウンセリング室、地域医療連携室

□薬剤部

□栄養管理部

□医療技術センター

□医療安全推進室

□看護部

□臨床研修センター

□臨床研究センター

□感染管理室

□事務部門

病院経営部

○経営企画課　○病院管理課　○医療サービス課　○医療サービス課医療相談室　○患者・家族支援室

病院の紹介

Introduction of hospital

病院の概要

名　　称	奈良県立医科大学附属病院 （公立大学法人 奈良県立医科大学）
病 院 長	古家　仁（ふるや　ひとし）
所 在 地	〒634-8522 奈良県橿原市四条町840番地
電　　話	0744-22-3051（代表）
F　A　X	0744-22-4121
敷地面積	47,991.85㎡
延床面積	108,784.40㎡

ハイブリッド手術室

ハイブリッド手術室とは、手術台と心・血管X線撮影装置を組み合わせた手術室のことです。２つの機器を組み合わせることにより、最新の医療技術に対応します。

放射線治療用リニアック（True Beam STx）

高精度の強度変調放射線治療（IMRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）などで、最先端のがん治療を実施しています。

ダヴインチXi（内視鏡手術支援ロボット）

ダヴインチは最先端の手術支援ロボットです。
1～2cmの小さな創より内視鏡カメラとロボットアームを挿入し、高度な内視鏡手術を可能にします。

PET/CT装置（Discovery IQx）

がんの病期や再発・転移の診断に主に用いられる画像診断装置です。検出器幅が長い最新型で、短時間で高品位の画像を収集でき、呼吸同期収集による画質向上も期待されます。

3テスラMRI（MAGNETOM　Skyra,Spectra）

全身領域で高精細な画像が得られる3テスラMRIを新たに導入しました。より鮮明で詳細な画像が得られ、適切な画像診断に寄与しています。

診療科の紹介

Specialized field

1	循環器・腎臓・代謝内科	循環器病（虚血性心疾患・心不全・不整脈）、腎臓病、人工透析、高血圧、糖尿病、生活習慣病、膠原病
2	呼吸器・アレルギー・血液内科	呼吸器疾患（肺癌、COPD、喘息、間質性肺炎、呼吸不全、肺高血圧症、睡眠時無呼吸症候群など）、血液疾患（白血病、リンパ腫、造血幹細胞移植など）、生活習慣病
3	消化器・内分泌代謝内科	消化器病（食道、胃腸、肝臓、胆道、膵臓）、糖尿病、内分泌疾患、生活習慣病
4	感染制御内科	各種感染症、呼吸器感染症、HIV感染症、ワクチン接種、海外渡航者外来、寄生虫疾患、輸入感染症、1類･2類感染症
5	神経内科	脳卒中、神経変性疾患、末梢神経障害、神経免疫疾患・筋疾患、頭痛、てんかん、認知症
6	消化器外科・小児外科・乳腺外科	消化器（肝・胆・膵・食道・胃・小腸・大腸・直腸）の手術、小児の手術、乳腺の手術
7	脳神経外科	脳腫瘍、下垂体腫瘍、脳動脈瘤、もやもや病、脊椎脊髄、小児脳疾患、てんかん、パーキンソン病の手術、血管内治療、定位放射線治療
8	心臓血管外科	成人と小児の心臓の手術、大血管と末梢血管の手術
9	整形外科	関節・脊椎・脊髄・手・骨・軟部腫瘍の手術、関節リウマチ、スポーツ医学、形成外科、骨・軟骨・皮膚・神経の再生医療
10	歯科口腔外科	口腔がん（舌がん、歯肉がん、頬粘膜がん、口底がん、口蓋がんなど）、口腔顎顔面領域の腫瘍全般、顎顔面外傷、顎関節症、口唇口蓋裂、顎変形症、口腔乾燥症、歯顎矯正、歯性感染症、歯科インプラント
11	産婦人科	妊娠・分娩・産褥、不妊、内分泌異常、月経異常、女性生殖器疾患（炎症・腫瘍）、更年期障害、骨盤臓器脱
12	眼科	屈折・調節、緑内障、神経眼科、白内障、網膜硝子体疾患、ぶどう膜疾患、角膜・結膜疾患
13	小児科	血栓・止血、血液・腫瘍、新生児、未熟児、小児循環器、小児神経、小児内分泌、遺伝カウンセリング、小児感染症、小児腎臓
14	精神科	うつ病、不安障害、統合失調症、老年期の認知症、てんかん、児童思春期の精神障害、発達障害、アルコール依存症
15	皮膚科	膠原病、水疱症、アレルギー性皮膚疾患、ウイルス性皮膚疾患、皮膚腫瘍、その他皮膚疾患一般
16	泌尿器科	尿路性器腫瘍、排尿機能障害、女性泌尿器科、小児泌尿器科、内視鏡・低侵襲手術、血液浄化療法、腎移植血管外科、男性機能不全、尿路結石症、ロボット支援
17	耳鼻咽喉・頭頸部外科	難聴、補聴器、人工内耳、中耳炎、めまい、頭頸部腫瘍（癌など）、甲状腺、鼻アレルギー、顔面神経麻痺、副鼻腔炎
18	放射線科（画像診断・IVR）	X線撮影、胃透視、CT、MRI、血管造影と癌、胆管・消化管・血管の閉塞動脈閉塞、動脈癌の低侵襲的画像下治療（IVR）
19	放射線治療・核医学科	がんの放射線治療（強度変調放射線治療、小線源治療、他）と核医学診断・治療（PET、他）
20	麻酔科	周術期管理、痛みの治療、呼吸･循環などの全身管理、集中治療、手術麻酔
21	救急科	重症救急疾患、重症外傷、広範囲熱傷、急性中毒、心肺停止
22	総合診療科	一般内科、内科系初診患者の診療、体調不良、関節痛及び生活習慣病、原因不明の発熱や体重減少などに対する診療、健診の二次検査
23	形成外科	形成外科は外科系診療科の中の一専門分野で機能回復とQOLの向上を目的とする専門外科です。主に顔のけがや外見上の変形、機能改善、組織の欠損に対する治療を行っています。
24	リハビリテーション科	様々な診療科と連携し、超急性期におけるリハビリテーションを実践しています。
25	病理診断科	全領域の生検及び外科的切除検体の組織診断、迅速診断、細胞診
26	呼吸器外科	呼吸器（肺･縦隔･胸壁）の手術

外来のご案内

The outpatient's guide

外来診療時間のご案内

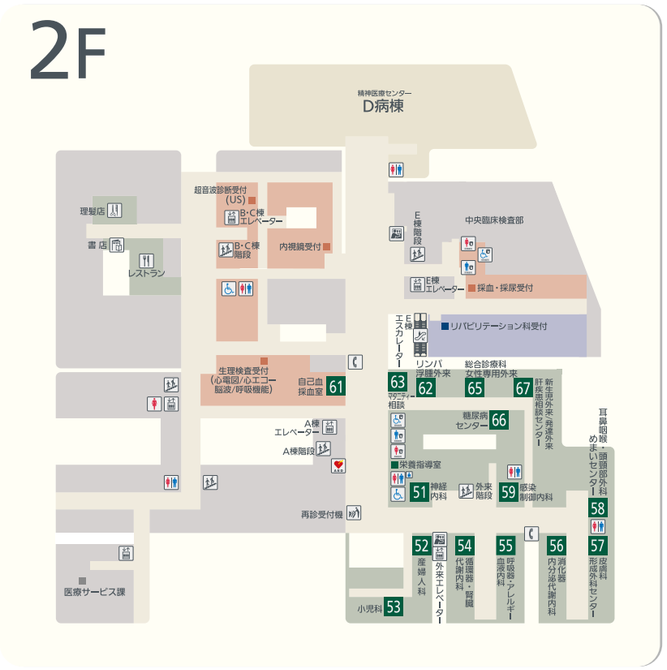
□診療受付時間　AM8:00～11:00
□休　診　日　土･日･祝日
　　年末年始(12/29～1/3)

専門外来

□女性専用外来　□新生児外来
□緩和ケア外来　□セカンドオピニオン
□遺伝カウンセリング　□化学療法外来
□妊娠と薬外来　□乳腺外科外来

コンビニ

コーヒーショップ



再来受付機	守衛室	オストメイト	エレベーター	電　話
ドトール	書　店	自動精算機	お手洗い	ベビーコーナー
階　段	自販機コーナー	レストラン	ATM	AED/自動体外式除細動
車いす用トイレ	授乳室	エスカレーター	コンビニ	理髪店

病棟のご案内

Guide of ward

	A病棟(北)	A病棟(南)	B病棟	C病棟			E病棟	
8F			耳鼻咽喉･頭頸部外科 呼吸器･アレルギー･血液内科 総合診療科	呼吸器･アレルギー･血液内科 感染制御内科 感染症センター			屋上テラス	RF
7F	眼科 皮膚科　形成外科 総合診療科		消化器･内分泌 代謝内科	循環器･腎臓 代謝内科			小児センター	7F
6F			消化器外科 小児外科 乳腺外科	心臓血管外科 呼吸器外科 放射線科			婦人科 メディカルバースセンター	6F
5F			脳神経外科	神経内科 口腔外科 麻酔科 ペインセンター			総合周産期母子医療センター MFICU 産科　授乳ケア外来	5F
4F			整形外科	泌尿器科 放射線治療･核医学科 透析部	精神医療センター D病棟		総合周産期母子医療センター NICU GCU	4F
3F	中央手術部		病理管理部	集中治療部 中央手術部 周術期管理センター	精神科		中央手術部	3F
2F	外来		中央臨床 検査部 喫茶･食堂	中央内視鏡部 超音波診断室 理容室	精神科	B･C･E棟連絡 A･D･E棟連絡	採血･採尿受付 リハビリテーション科	2F
1F	総合案内　地域医療連携室 総合相談窓口　入退院受付 外来	コーヒーショップ	高度救急救命 センター	救急HCU　救急ICU IVRセンター 総合画像診断センター 中央放射線部	精神科外来	B･C･E棟連絡 A･D･E棟連絡	がん相談支援センター　患者サロン「なごみ」 緩和ケアセンター　腫瘍センター 外来化学療法室/化学療法外来 アイソトープ検査	1F
BF			中央材料室 医療技術センター	栄養管理部		B･C･E棟連絡 A･E棟連絡	放射線治療･核医学科外来 中央放射線部 放射線治療	BF

□福利厚生施設

患者、面会者等のサービスの向上を図るため、コンビニやコーヒーショップ・食堂を設置しています。

□薬剤部

正確かつ迅速な調剤、適切な薬品供給管理・薬品情報の提供、薬剤管理指導業務さらに注射薬の混合調製等を行い、チーム医療と医療安全に貢献しています。

□栄養管理部

精度管理された食事の提供とともに栄養食事指導業務を実施し、また、チーム医療の一員として栄養治療による病態改善に取組んでいます。

□臨床研究センター

治験をはじめとした臨床研究の受託手続きや支援などの窓口、臨床研究審査委員会の事務局及び治療を円滑に行うためのコーディネーター業務を行っています。

□感染管理室

病院に出入りするすべての方々をさまざまな感染症から守り、感染拡大を最小限に押さえるための活動を行っています。

□病院ボランティア「ラポール」

患者サービスの向上を図るため、外来患者の誘導、診察手続きの支援、ボランティア図書の維持管理などの活動をしていただいています。

病院ボランティア「ラポール」の皆さん

□看護部

入院から退院まで継続して受け持ち、安全で心細やかな看護を提供しています。

□臨床研修センター

地域医療を担い、明日の医学に足跡を残せる人材を育てます。意欲あふれる研修医たちが医の心を大切にし、熟意ある上級医の指導の下にプライマリーケアから高度先進医療まで日夜研修に励んでいます。

□医療技術センター

チーム医療の一翼を担う医療技師の集団です。活躍の場は大学病院の殆どの診療科に係りそれぞれの専門的な知識を活かして大学病院の役割である高度先進医療の提供に貢献しています。

□医療安全推進室

安心して医療を受けていただけるよう、病院における安全対策を推進しています。

薬剤部

臨床研修センター

中央診療施設の紹介

Introduction of central section

1 中央臨床検査部 ▸▸▸ 血液や尿などの分析、心臓や脳の働きの記録など様々な検査を行い、病気の診断、治療に必要な情報を提供しています。

2 輸血部 ▸▸▸ 自己血採血および造血幹細胞採取を行うとともに、輸血に関わる検査を厳密に行い、安全な血液の提供を行っています。

3 中央手術部 ▸▸▸ 高度な医療技術と設備機器により、難易度の高い手術に対応しています。手術室15室

4 集中治療部 ▸▸▸ 院内各診療科の重症患者に対する集中的な治療・管理・看護を行っています。

5 中央放射線部 ▸▸▸ 診断、治療に必要な詳細な画像情報を速やかに提供するとともに、高度なIVR・放射線治療を実施しています。

6 中央内視鏡部 ▸▸▸ 消化器（食道・胃・十二指腸・胆道・膵臓・小腸・大腸）および気管支の各種内視鏡検査と内視鏡的治療を行っています。

7 透析部 ▸▸▸ 末期腎不全の透析導入と他科の治療を必要とする透析患者の入院透析を中心に、腎移植とトラブルシャントの血行再建に取り組んでいます。

8 病院病理部 ▸▸▸ 正確で迅速な病理診断を行い、患者の治療の選択や予後に関する重要な情報を臨床各科に提供することにより、本院の高度先進医療に寄与しています。

9 医療情報部 ▸▸▸ 診療に関する情報の管理と医療情報システムの企画整備を行っています。

10 高度救命救急センター ▸▸▸ 三次救急医療施設として救急車による重症救急患者の受け入れを24時間体制で行っています。

11 総合周産期母子医療センター ▸▸▸ ハイリスク母体ならびに病的新生児の三次救急医療施設として、他の病院からの母体や新生児の受け入れを24時間体制で行っています。

中央臨床検査部

輸血部

集中治療部

高度救命救急センター

総合周産期母子医療センター

12 感染症センター ▸▸▸ 各種感染症全般の診療・予防と、新興・再興感染症やHIV診療等を行っています。

13 精神医療センター ▸▸▸ 児童期の発達障害から老年期の認知症まで、こころの病いに対処し、また精神科三次救急施設として急性期から社会復期支援、自殺対策など地域精神科医療に取り組んでいます。

14 腫瘍センター ▸▸▸ がん治療において重要な役割を担う抗がん剤治療（化学（薬物）療法）を、安全面に配慮しながら、より有効に実施できるよう管理しています。院内では、通院でがん化学（薬物）療法（リウマチなど自己免疫疾患に対する一部の生物学的製剤も含まれます）を行うための「外来化学療法室」を運営しています。

15 緩和ケアセンター ▸▸▸ 痛みなどの様々な身体症状、落ち込みや悲しみなどの気持ちのつらさを抱えておられる患者・家族の方々に対して各診療科をはじめ他部門・多職種と連携しながら、からだとこころのケアを行っています。

16 移植細胞培養センター ▸▸▸ 再生医療や免疫細胞療法など、細胞を利用した医療や研究を行う極めて高度な施設です。ここでの細胞治療には、細胞プロセッシングといわれる細胞の調整・培養・加工などの工程を必要とし、医薬品等と同等の安全性・品質管理が必要となります。

17 小児センター ▸▸▸ 血栓・止血、血液、腫瘍、小児循環器、小児神経、新生児医療、小児感染症、免疫・アレルギー疾患を重点専門領域として高度な小児医療および救急医療をおこなっています。

18 メディカルバースセンター ▸▸▸ 合併症が無く、妊娠経過が正常で助産外来受診された方対象に助産師主体でお産をサポートしていきます。お産経過中は家族の方の立ち会いができます。経過中異常になれば総合周産期母子医療センターに移っていただきます。

19 ペインセンター ▸▸▸ ペインとは「痛み」の意味で、しびれやマヒも診察します。治療は、神経ブロックという注射が中心です。必要に応じて薬も出し、点滴もします。

20 リウマチセンター ▸▸▸ リウマチ性疾患（関節リウマチ、膠原病、鑑別を要する関節炎など）の診断・治療・患者教育を内科・整形外科医師、看護師、薬剤師などが共同し、チーム医療を実施しています。

感染症センター

腫瘍センター

移植細胞培養センター

メディカルバースセンター

ペインセンター

中央診療施設の紹介

Introduction of central section

21 糖尿病センター ▸▸▸ 糖尿病ならびに糖尿病合併症の評価・治療・患者教育を医師、看護師、栄養管理士、薬剤師、臨床検査技師などが共同し、チーム医療を行っています。

周術期管理センター

22 先天性心疾患センター ▸▸▸ 各診療科協力のもと新生児・乳幼児期から成人期に至るまで、長期に渡る統合的な診療を行っています。胎児超音波診断を積極的に導入して早期診断に努め、すべての先天性心疾患手術やカテーテル治療にも対応しています。

23 周術期管理センター ▸▸▸ 手術決定から退院まで、合併症なく安全に手術が受けられるようサポートしています。麻酔管理、口腔ケア、薬剤管理、リハビリテーション、栄養管理などを実施しています。

IVRセンター

24 IVRセンター ▸▸▸ 最先端の低侵襲画像下治療を提供しています。治療は放射線科・循環器内科・脳外科の専門医が担当し、循環器領域、脳神経・頭頸部領域、大血管・末梢血管領域、がん診療、救急領域など様々な疾患を対象に、本邦屈指の年間症例数を行っています。

玉井進記念四肢外傷センター

25 玉井進記念四肢外傷センター ▸▸▸ 切断指再接着を世界で初めて成功された玉井進名誉教授のお名前を冠した施設です。開放骨折、切断指、小児骨折などの緊急度の高い四肢外傷を中心に治療を行っています。

26 総合画像診断センター ▸▸▸ さまざまな最先端の画像情報を総合的に診断し、手術・診療支援3D画像など治療に必要な情報を提供しています。

総合画像診断センター

27 めまいセンター ▸▸▸ めまいは耳から起こるモノが最多ですが、脳や心臓、さらには精神的なモノもあり、原因となる臓器は多岐にわたります。めまい診療をセンター化することで、めまい疾患への対応の複雑さを解消し、迅速で的確な診断・治療を図ることが実現しました。

28 中央材料室 ▸▸▸ 院内で使用する再生器材の洗浄・滅菌と、滅菌物使用状況管理システムによる器材の履歴管理を行っています。

めまいセンター

29 遺伝カウンセリング室 ▸▸▸ 遺伝や遺伝の病気についての不安や悩みをお持ちの方に対して、遺伝に関する正確な情報の提供、支援を行っています。

30 地域医療連携室 ▸▸▸ 地域医療充実のため、紹介患者の予約診療や退院調整、地域医療連携パスに取り組んでいます。

地域の医療機関の皆様へ

目 次

1. 紹介患者予約のしくみ
2. 転院調整・在宅調整
3. 地域連携パス
4. 各診療科の案内

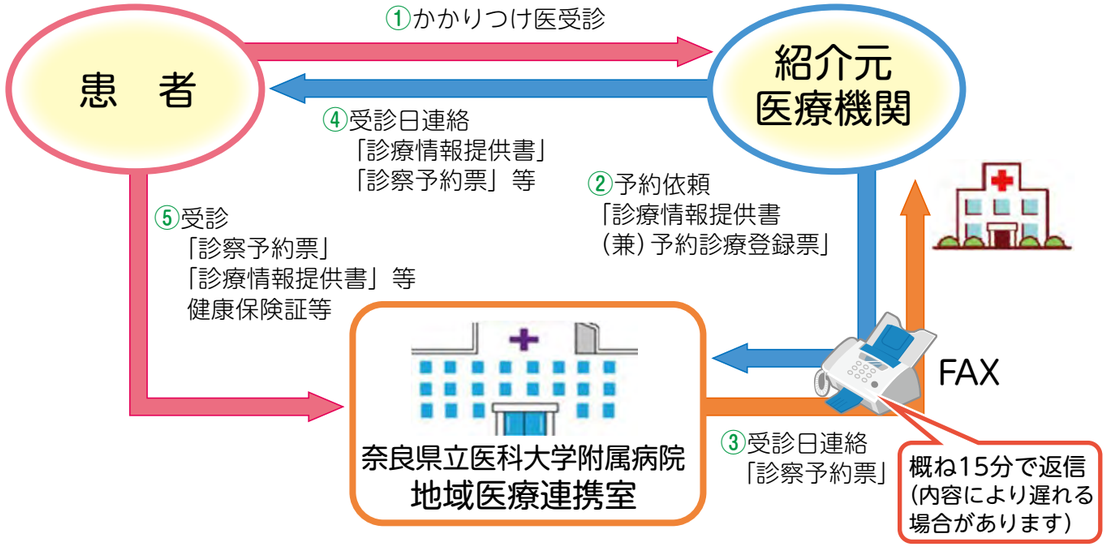
01 循環器・腎臓・代謝内科 p.13
02 呼吸器・アレルギー・血液内科 p.15
03 消化器・内分泌代謝内科 p.17
04 神経内科 p.19
05 消化器外科・小児外科・乳腺外科 p.21
06 脳神経外科 p.23
07 心臓血管外科 p.25
08 整形外科 p.27
09 歯科口腔外科 p.29
10 産婦人科 p.31
11 小児科 p.33
新生児外来 p.35
12 眼科 p.37
13 耳鼻咽喉・頭頸部外科 p.39
14 皮膚科 p.41
15 泌尿器科 p.43
16 精神科 p.45
17 放射線科 p.47
18 放射線治療・核医学科 p.49
19 ペインセンター p.51
21 総合診療科 p.53
22 感染制御内科 p.55
24 呼吸器外科 p.57
34 緩和ケアセンター p.59
35 化学療法外来 p.61
36 リウマチセンター p.63
37 乳腺外来 p.65
38 糖尿病センター p.67
39 形成外科 p.69
45 玉井進記念四肢外傷センター p.71

※番号は当院の診療科番号です。

1. 紹介患者予約のしくみ

当院では、患者さんの診療の待ち時間の短縮や、地域の医療機関との連携を推進するため、地域医療連携室を窓口として、紹介患者の予約診療を行っています。
各医療機関の先生方は、診療科の診療内容をご参照のうえ、以下のシステムをご活用いただき、お申し込み下さい。

＜お願い＞
- 診察予約の受付は、医療機関からの紹介に限ります
- 当院での治療終了後は、紹介元医療機関にお戻りになっていただきます
- 当院FAX・インターネットでの受付となります
- 画像を持参の場合は、なるべくメディアで持参ください



予約受付時間 平日8:30～16:00

予約専用FAX 0744-23-9901
TEL 0744-29-8022（直通）
0744-29-3051（代表）

※但し受付時間以外のFAX受信については翌朝以降の対応となります

※電話でのご予約、当日予約は受け付けておりません。
※患者ご本人からの予約は受け付けておりません。
※再診予約の変更・キャンセルについては、各診療科での対応となります。
※緊急受診・転院のご相談については各診療科での対応となります。
※「診療情報提供書（兼）予約診療登録票」は奈良県立医科大学附属病院のホームページの「地域医療連携室」→「予約診療用紙ダウンロード」からダウンロードしてください。

2. 転院調整

国が進める、切れ目の無い医療の提供、安心して生活できるための地域包括ケアシステムにおける当院の役割を発揮し、医療機能分化による**転院**、および**在宅復帰支援**を含めた**退院調整**を行っております。たとえ、転院したとしてもいずれは在宅を目指し、地域の医療機関のみなさまにお世話になります。退院前にはできるだけ、退院前カンファレンスの実施を心がけております。
送り出す際に、「治療が終われば帰って来なさい。待ってますよ。」とお声掛けいただければ、患者さんも安心されると思います。
また気になることがあればいつでも御連絡いただけましたら幸いです。

3. 地域連携パス

急性期病院から回復期病院を経て早期に自宅に帰ることを目的に、連携する医療機関と、治療計画を共有・役割分担を行い、あらかじめ、内容を患者に提示・説明することにより、患者が安心して医療を　受けることができるようにするものです。
医療機能の分化・連携の推進による切れ目のない医療の提供をサポートする体制です。

取り扱いパス

胃がん・大腸がん・肝がん・肺がん・乳がん・脳卒中
虚血性心疾患・維持透析施設紹介・緩和ケア・眼疾患

連携医療機関の登録は随時行っております！ 直接お問い合わせ下さい！

奈良県立医科大学附属病院　地域医療連携室　退院調整係
TEL 0744−29−8022　内線 3150・3153・3156

01 循環器・腎臓・代謝内科

診療各科のご案内

●診察科の紹介

心臓病を中心とした循環器疾患、腎臓病、および糖尿病などの代謝疾患の診療を行っています。高血圧、高脂血症、糖尿病などは食べ過ぎや運動不足などの不適切な生活習慣がもたらす「生活習慣病」です。これらの管理が不十分であると、心臓病や腎臓病などの重篤な合併症を発症する危険が高くなります。さらに、心臓病からは心不全、腎臓病からは人工透析に至るなど、患者様に多大な障害を引き起こしてしまいます。つまり、早期からの生活習慣病の管理が大切なのです。循環器・腎臓・代謝内科では、心臓病や腎臓病に対する最先端の検査と治療はもちろん、その予防のために患者様の生活習慣改善のサポートと生活習慣病の管理を行っております。

●診療内容

１．循環器部門では、心臓の病気（狭心症、心筋梗塞、心不全、不整脈、心臓弁膜症、先天性心疾患など）、血管の病気（動脈硬化症、大動脈瘤、静脈血栓症など）、血圧の異常（高血圧、低血圧、失神など）の診療を行っています。特に、狭心症や心筋梗塞などの病気は突然に発症して重症になることも多いので、緊急のカテーテル治療、集中治療を２４時間態勢で実施しています。

２．腎臓部門では、蛋白尿・血尿や腎機能障害などの腎疾患を中心に診療を行っています。腎臓病には、原発性糸球体腎炎をはじめ、糖尿病や高血圧などによる二次的な腎障害があります。当科では腎生検を積極的に行い、的確な診断と最新の治療を実践しています。腎臓病の中には慢性腎不全にいたるものもあり、腎不全が進行した末期腎不全では透析療法が必要になりますが、当科では腹膜透析の専門外来も行っています。

３．代謝部門では、糖尿病、高脂血症、高尿酸血症（痛風）の代謝３疾患を主要な診療分野としています。糖尿病診療では食事療法・運動療法・薬物療法の組み合わせによる最適でオーダーメードの血糖管理につとめており、インスリン自己注射や血糖自己測定も積極的に導入しています。

●対象疾患

循環器疾患：心不全、狭心症、心筋梗塞、心筋症、不整脈、弁膜症、先天性心疾患、大動脈解離、高血圧、低血圧、失神
腎臓疾患：慢性腎炎、慢性腎不全、高血圧、急性腎炎、急性腎不全、ネフローゼ症候群、急速進行性糸球体腎炎、膠原病などに伴う腎疾患
代謝疾患：糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症

●対象治療

- 冠動脈疾患：経経皮的冠動脈形成術（ステント治療、ロータブレータ、エキシマレーザー）
- 不整脈：カテーテルアブレーション、ペースメーカ植え込み術、植え込み型除細動器
- 心臓弁膜症：経皮的大動脈弁バルーン拡張術、経皮的僧房弁裂開術
- 急性腎障害：血液透析、副腎皮質ステロイド療法
- 末期腎不全：血液透析、腹膜透析
- 糸球体腎炎・ネフローゼ症候群：副腎皮質ステロイドや免疫抑制剤を用いた薬物療法
- その他：心臓再同期療法、閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的心筋中隔焼却術

●主な検査

心臓超音波検査（経胸壁、経食道）、トレッドミル運動負荷心電図、心筋シンチグラフィー、心臓CT、心臓MRI、24時間心電図、24時間血圧計、心臓カテーテル検査（冠動脈造影検査、電気生理学的検査、心筋生検）、腎生検、腎臓超音波検査

●地域の医療機関の先生方へ

１．急性心筋梗塞、心不全、腎不全などの救急疾患に関しては、24時間態勢で対応しています。胸痛に関する救急受診のお問い合わせについては、CCUホットラインも設けております。救急受診のご要望のみならず、大学病院での対応が必要かどうかお悩みの場合なども気軽にお問い合わせください。
２．循環器・腎臓・代謝内科では、実地医家（開業医）の先生方や地域病院の先生方との間での患者様の紹介および逆紹介（ご紹介いただいた患者様の退院後の通院加療など）を円滑に進められるよう、定期的に病診連携の集いを開催しております。

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎医師の指定がない場合は、初診担当医でご予約をお取りします。
（医師の指定がある場合は、希望医の外来日をご指定下さい）

月	火	水	木	金
初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医

02 呼吸器・アレルギー・血液内科

●診察科の紹介

当診療科は外来診療を行うとともに、一般内科の病床ベッド66床（C棟8階45床、B棟8階21床）を担当し入院診療をおこなっています。平成27年の外来患者数は約33000人、入院患者は約1100人になります。診療領域としては『呼吸器・アレルギー内科』、『血液内科』を中心に行っており、診療スタッフは一般内科の深い経験とともに、呼吸器内科もしくは血液内科全般の知識と豊富な経験を兼ね備えています。癌、アレルギー、COPD、感染症、肺循環、睡眠医療、移植医療などそれぞれの分野のエキスパートが揃っていますので安心してご紹介ください。

●診療内容

『呼吸器・アレルギー内科』

●**肺癌**：個々の患者さまの病状に応じて、最も適切な治療法を提案し、患者さま自身と十分話し合い、安全かつ最も効果的な治療が行えるように努めています。

●**気管支喘息**：初診時に詳細な病歴聴取、喀痰検査、呼吸機能（気道可逆性試験）と必要に応じて気道過敏性試験（アストグラフ）を行います。

●**COPD（肺気腫、慢性気管支炎など）**：栄養障害や骨粗鬆症、心血管疾患などの併存症も併せて診断し治療を行うようにしています。吸入気管支拡張薬や去痰薬などによる薬物療法のみならず栄養管理、呼吸リハビリテーション、在宅酸素療法なども含めた包括的治療を行っています。

●**びまん性肺疾患**：特発性間質性肺炎やサルコイドーシスに加えて、過敏性肺臓炎、好酸球性肺炎などの疾患に対して、気管支鏡検査や呼吸器外科と連携した胸腔鏡下肺生検などにより診断しています。各種膠原病に関連した呼吸器病変は関連他科やリウマチセンターと連携をとって診療を行っています。

●**肺高血圧症**：近年、肺高血圧症に有効な薬剤が開発され、治療が著しく進歩しています。当科では診断に必要である右心カテーテル検査を積極的に行い、早期診断・早期治療を心がけています。

●**睡眠時無呼吸症候群**：終夜睡眠ポリソムノグラフィー（PSG）が必要なため、入院で検査を行います。治療は減量や生活習慣の是正を行うとともに、症状・重症度に合わせ、経鼻的持続陽圧呼吸療法（nCPAP）や歯科装具の装着などを行います。

『**血液内科**』：奈良県内の数少ない血液疾患専門施設として、造血障害や血液腫瘍の診療を中心におこなっており、一般の医療機関での対処が困難な白血病治療や造血幹細胞移植が主体となっています。

●対象疾患

『**呼吸器・アレルギー内科**』：肺癌、肺炎、気管支喘息、COPD（肺気腫、慢性気管支炎）、間質性肺炎・肺線維症、肺高血圧症、肺血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）、睡眠時無呼吸症候群、在宅酸素療法など多岐にわたっています。

『**血液内科**』：急性および慢性性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、成人T細胞白血病・リンパ腫、再生不良性貧血、発作製夜間ヘモグロビン尿症、特発性血小板減少性紫斑病など多岐にわたっています。

●対象治療

『**呼吸器・アレルギー内科**』

肺癌：化学療法・分子標的治療・放射線治療など
気管支喘息：ステロイド＋気管支拡張薬の吸入療法での維持療法、分子標的治療薬など
COPD：吸入気管支拡張薬、去痰薬、栄養管理、呼吸リハビリテーション、在宅酸素療法など
びまん性肺疾患：ステロイドを中心とした免疫抑制療法、在宅酸素療法など
肺高血圧症：プロスタグランジン製剤、エンドセリン受容体拮抗薬、PDE-5阻害薬など
睡眠時無呼吸症候群：歯科装具（マウスピース）の装着、CPAPなど

『**血液内科**』

悪性疾患：化学療法、分子標的治療薬、放射線治療、造血幹細胞移植
再生不良性貧血：免疫抑制療法、造血幹細胞移植など
自己免疫性血液疾患：免疫抑制療法など

●主な検査

『**呼吸器・アレルギー内科**』：気管支鏡検査、精密呼吸機能検査、アストグラフ、心肺運動負荷検査、右心カテーテル検査、肺換気・血流シンチ検査、CTガイド下肺生検、睡眠時ポリソムノグラフィー（PSG）などを行っています。

『**血液内科**』：血液疾患診断・治療評価のための骨髄穿刺、骨髄生検、フローサイトメトリー、染色体・遺伝子検査、髄液検査などを行っています。

●地域の医療機関の先生方へ

●胸部レントゲン異常精査でご紹介いただく場合は、胸部CTや以前のレントゲンもご持参いただく様お願いします。
●抗酸菌症疑いでご紹介いただく場合は、予約時に喀痰検査などの結果を一緒にご連絡いただく様お願いします。
また、患者様にはマスクを着用するようにご指導をお願いします。

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎医師の指定がない場合は、初診担当医でご予約をお取りします。

月	火	水	木	金
呼吸器	呼吸器	呼吸器	呼吸器	呼吸器
血液	血液	血液		血液

◎血液内科へご紹介の際は、ご紹介状に血液検査データを添付してください。
◎血液内科に関しましては、緊急の患者対応などにより、時間がかかることがございます。

03 消化器・内分泌代謝内科

診療各科のご案内

●診察科の紹介

当科は消化管、肝胆膵、内分泌、糖尿病を含めた代謝疾患を対象として診療を行っております。附属病院において、年間40,000人の外来患者さんを診療し、1,300人以上の新しい入院患者さんを関連病院との密接な連携のもとに臨床各科と協力しながら幅広い診療を行っており、奈良県はもとより他府県からも多数受け入れています。教室の第１の目標は十分な医学的知識・技量と真の「癒しの心」を持って患者さんに信頼される医療を行うことにあります。関係科との定期的なカンファレンスをいくつも行っており、一人一人の患者さんに対する最適な治療を診療科の枠を越えて考えるようにしています。また、奈良県における中核病院としての役割を果たすとともに、地域医療にできるだけ貢献することを目標としています。

●診療内容

肝疾患では肝炎ウイルスに対する最新治療に加え、生活習慣病の増加にともなって患者さんの数が増えている非アルコール脂肪肝炎（NASH）に対する治療も栄養士、薬剤師など多職種との連携のもと生活指導を含めて積極的に行っています。その他、自己免疫性肝炎や原発性胆汁性肝硬変などの自己免疫性肝疾患は全国でも有数の症例経験を有しており、肝硬変に対するさまざまな合併症、肝細胞がんに対する治療においてもラジオ波焼灼療法や新規分子標的治療薬を含めた抗癌剤による治療を多数行っています。消化管では食道から大腸まで良性疾患、悪性疾患を問わず広く治療しており、各種内視鏡的治療や薬物療法を最新の技術、手法を用いて年間多くの治療を行っています。近年患者さんの数が増加している潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患も消化器外科と連携を取りながら診療を行っています。胆嚢や膵臓の疾患についても、消化管と同じく急性疾患から慢性疾患まで最新の機器を用いて患者さんの負担の少ない治療を行っています。抗癌剤による化学療法もあらゆる消化器系腫瘍に対して患者さんそれぞれの状況に応じて、患者さんとの話し合いのもとに多数行っています。内分泌疾患に関しても小児の成長障害を含めあらゆる疾患に対応できる専門家による診療体制を整えています。

●対象疾患

●劇症肝炎、急性肝不全、慢性肝炎（ウイルス性）、非アルコール性脂肪肝炎、自己免疫性肝炎、
原発性胆汁 性肝硬変、肝癌、　肝硬変、腹水症
●胃十二指腸潰瘍、食道癌、胃癌、大腸癌、炎症性腸疾患　胆管炎
●胆嚢炎、胆石症、膵炎、膵臓癌、胆道癌
●糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、視床下部下垂体疾患、内分泌腫瘍

●対象治療

●肝疾患に対して肝生検を含めた診断、インターフェロン、抗ウイルス薬の導入など
●消化器癌：早期癌に対して内視鏡治療や進行癌に対して化学療法や放射線療法による集学的治療など
●消化管出血に対する緊急内視鏡処置など
●胆膵疾患に対する、内視鏡検査、手術、救急疾患にも対応しています。
●内分泌疾患に対して検査入院や救急疾患にも対応しています。

●主な検査

●エコー下経皮的肝生検、エコー下経皮的ラジオ波焼灼療法、エコー下経皮的エタノール注入療法、
肝動脈塞栓化学療法および肝動注療法、
●上部・下部消化管内視鏡検査、ダブルバルーン内視鏡検査
内視鏡的止血術、内視鏡的食道静脈瘤硬化療法、内視鏡的食道静脈瘤結紮術
胃粘膜下層剥離術、食道粘膜下層剥離術、
●胆石、胆管腫瘍に対して内視鏡的逆行性胆管膵管造影、胆道ドレナージ、
超音波内視鏡下穿刺吸引

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎医師の指定がない場合は、初診担当医でご予約をお取りします。
（医師の指定がある場合は、希望医の外来日をご指定ください）

月	火	水	木	金
消 化 器	消 化 器	消 化 器	消 化 器	消 化 器
内 分 泌	C型肝炎		C型肝炎	内 分 泌

◎大腸ESDのご依頼は、消化器外科にご紹介ください。

04 神経内科

●診察科の紹介

人口の高齢化やストレス社会の到来に伴い、神経内科疾患の中でも脳血管障害（脳卒中）や認知症、パーキンソン病、頭痛、てんかん、末梢神経障害などのいわゆるcommon　diseasesの患者数が急増しています。一方では筋萎縮性側索硬化症や脊髄小脳変性症、多発性硬化症、重症筋無力症、筋ジストロフィーといった神経難病の原因究明と治療法開発は日々進歩しています。神経内科では脳神経疾患の専門知識を持つ神経内科医が、脳梗塞などの生活習慣病と関連のある疾患から、専門性の高い神経疾患まで、脳・脊髄・末梢神経・筋肉の疾患について幅広く診療を行っています。

●診療内容

神経疾患の患者さんの症状で多いものとして、筋力低下、感覚障害、歩行障害、ふらつき、失語、呂律困難、頭痛、認知症、視野欠損、複視、痙攣、意識障害などが挙げられます。これらの症状のある神経疾患の患者さんに対して、詳しい問診と神経学的診察を行い、脳、脊髄、末梢神経、筋肉のどこにどのような障害が起こっているのかを推測し、各種検査を行い、診断、治療につなげていきます。２０１５年の年間外来患者数は、初診１１６０名(実数)、再診１４３１０名（延べ人数)、入院患者数４５７人（共観患者含む実数）で、多くの神経疾患を診察しており、地域医療で中核を担っています。診断が難しい例では入院での精査も行っています。

●対象治療

治療は疾患毎に様々です。例をあげると、脳血管障害に対しては急性期血栓溶解療法、抗凝固・抗血栓療法、他科との連携での血管内治療を行っています。パーキンソン病、てんかん等の疾患に対しては、正確な診断をもとに最新治療薬を含めた薬剤コントロールを行います。多発性硬化症、重症筋無力症などの自己免疫疾患に対しては、ステロイドパルス、各種免疫修飾薬、免疫グロブリン療法、血漿交換などの免疫治療、ジストニアや顔面けいれんにはボトックス治療なども行います。その他、内服加療で改善するものから全身管理が必要な疾患まで、脳・脊髄・末梢神経・筋の多岐にわたる疾患の最新の治療をしています。

●主な検査

当科で行う検査には、脳CT、脳MRI、脳MRA、脊髄MRI、脳血流シンチ、MIBG心筋シンチ、DATscanなどの画像検査や、針筋電図、神経伝導検査、脳波などの電気生理的検査、頸動脈エコーなどの超音波検査、髄液検査などがあります。また認知機能・高次機能検査や、神経生検、筋生検などの病理検査、遺伝性神経疾患に対する遺伝子検査も行っています。各種検査を行い原因のわからない疾患の診断を行います。

●対象疾患

脳血管障害
<脳梗塞>一過性脳虚血発作、ラクナ梗塞、アテローム血栓性脳梗塞、脳塞栓症、動脈解離、静脈洞血栓症、Trousseau 症候群、コレステロール結晶塞栓症、Binswanger 病、脳アミロイドアンギオパチー、脳血管性認知症、一過性全健忘など

変性疾患
<脳変性疾患>パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、びまん性レヴィー小体病、大脳皮質基底核変性症、進行性核上性麻痺、アルツハイマー病、ハンチントン病、前頭側頭葉型認知症
<運動神経疾患>筋萎縮性側索硬化症、脊髄性進行性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症

免疫疾患 / 腫瘍関連疾患
<自己免疫疾患>多発性硬化症、視神経脊髄炎、急性散在性脳脊髄炎、自己免疫性脳炎、神経サルコイドーシス、神経ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、側頭動脈炎
<膠原病に伴う神経疾患>シェーグレン症候群、強皮症、血管炎症候群、SLE (CNS lupus)
<腫瘍関連疾患>傍腫瘍症候群、脳原発血管内リンパ腫、癌性髄膜炎 (･･･他科との連携)

末梢神経疾患
ギランバレー症候群、フィッシャー症候群、慢性炎症性脱随性多発神経炎、多巣性運動性ニューロパチー、Sensory neuropathy、POEMS 症候群、シャルコー･マリー･トゥース病、手根管症候群、神経痛性筋萎縮症、帯状疱疹後神経痛、顔面神経麻痺、三叉神経痛、アミロイドーシス、MGUS ニューロパチー

機能性疾患
頭痛 (片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛など)、てんかん、正常圧水頭症、低髄液圧症候群、可逆性白質脳症 (PRES)
<不随意運動症>本態性振戦、眼瞼･顔面攣縮、メージュ症候群、痙性斜頸、口舌ジストニー、ミオクローヌス、発作性運動誘発性舞踏アテトーゼ、薬物誘発性急性ジストニー

筋･神経筋接合部疾患
多発筋炎･皮膚筋炎、封入体筋炎、ミトコンドリア脳筋症、周期性四肢麻痺、筋ジストロフィー、筋強直性ジストロフィー、先天性ミオトニア、先天性ミオパチー、重症筋無力症、ランバート･イートン症候群

感染性疾患
髄膜炎･脳炎 (細菌性、ウイルス性、結核性、真菌性)、脳膿瘍、神経梅毒、クロイツフェルト･ヤコブ病、進行性多巣性白質脳症、HIV 脳症、トキソプラズマ脳症、亜急性硬化性全脳炎

脊髄疾患
脊髄炎、HTLV-1 関連脊髄炎、亜急性連合性脊髄変性症、脊髄動脈症候群、家族性痙性対麻痺、平山病、頸椎症 (頸椎症性神経根症、頸椎症性頚髄症)、腰椎症 (腰部脊柱管狭窄症など)･･･整形外科と連携

代謝性疾患、遺伝性疾患
ウェルニッケ脳症、橋中心髄鞘崩壊症、副腎白質ジストロフィー、ライソゾーム病(ムコ多糖症、スフィンゴリピドーシス、糖原病)、神経線維腫症、Wilson病、セルロプラスミン欠損症、CADASIL、CARASIL... 等、その他多数

薬剤性･中毒性疾患
一酸化炭素中毒、薬剤性脳症、悪性症候群、セロトニン症候群、薬剤性パーキンソン症候群
その他、内科疾患に伴う神経疾患など各種神経疾患を診察しています。

●地域の医療機関の先生方へ

当科は神経疾患全般に対して診療を行っていますが、当院が大学附属病院であることから、日々進歩している最先端の検査、治療、より高度な医療を行うよう努めています。対象となる疾患も非常に多く、特に大学病院でしか診断治療が困難な症例、稀な疾患に対して紹介を受けて、入院して精査加療も行っております。対象となる疾患は、上記のように多岐に渡ります。脳神経疾患に伴う認知症は当科でも精査を行いますが、通常のアルツハイマー型認知症や精神症状を伴う認知症は当院精神科の認知症センターでも診療を行っています。

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎医師の指定がない場合は、初診担当医でご予約をお取りします。
（医師の指定がある場合は、希望医の外来日をご指定下さい）

月	火	水	木	金
初診担当医		初診担当医※	初診担当医	初診担当医

※下記については、主に水曜日にご紹介ください。
眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸・上下肢痙縮のボトックス注射、針筋電図を希望される患者さん
◎脳神経疾患に伴う認知症診断も行っていますが、
一般的な認知症の診察検査は当院精神科の認知症疾患センターにご紹介ください。

05 消化器外科・小児外科・乳腺外科

診療各科のご案内

●診察科の紹介

消化器・総合外科では、食道から肛門に至る消化管の疾患、肝胆膵領域の疾患、小児の疾患の外科治療ならびに奈良県下唯一の移植施設として生体肝移植を行っており、手術件数は年間800件を越えています。
特に癌治療の専門拠点病院として、手術療法を中心とし、化学療法や放射線療法など他の治療法も組み合わせた最新の治療により、可能な限り完治していただける努力を行っており、国内でも有数の治療成績です。
　当科では小児から成人までの消化器良性・悪性疾患の外科治療、内視鏡治療のほか、肝臓移植・膵臓移植などの移植外科、炎症性腸疾患の研究や診療をしています。低侵襲手術から骨盤内臓全摘手術などの超拡大手術、さらには移植手術などの繊細な技術と高度な術後管理を要するものまで、適材適所に人員を配置し、良いチームワークで診療を行っています。抗癌剤や放射線などの集学的治療についても関連する科と連携して適切に行っています。低侵襲手術では日本内視鏡外科学会の技術認定医が6名在籍し、技術的にもトップレベルであり、多数の鏡視下手術を手掛けています。
　この鏡視下手術は食道癌、胃癌、大腸癌を始め、最近では肝癌、膵癌に対しても積極的に行っています。また、潰瘍性大腸炎、腸閉塞、虫垂炎、胆石症などの良性疾患や脾臓摘出術、小児外科手術でも多くの症例を鏡視下で行っています。

●対象疾患

1)消化器(食道、胃、大腸、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、GISTなど) の癌診療
2)肝臓移植、膵臓移植などの移植医療
3)炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病)、胆石症、ヘルニアなどの良性疾患の手術 4)消化管の内視鏡治療(特に下部消化管)：大腸ポリープ、腺腫、大腸癌
5)小児疾患：鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、食道閉鎖症、小腸閉鎖症、肥厚性幽門狭窄症、鎖肛、胆道閉鎖症、胆管拡張症、膵胆管合流異常症、ヒルシュスプルング病、小児悪性腫瘍など

●診療内容

上記の疾患に対する外科治療、化学療法、内視鏡治療

●対象治療

消化器の悪性腫瘍に対する手術治療、化学療法、内視鏡治療、緩和医療
炎症性腸疾患、胆石症、ヘルニアなどに対する手術治療
小児疾患に対する外科治療
大腸の内視鏡治療

●主な検査

上部・下部消化管内視鏡検査
消化管造影検査
腹部超音波検査

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎専門によって診察曜日が異なりますので、専門の曜日にご紹介ください。

月	火	水	木	金
小児外科	肝・胆・膵		胃・食道	大　腸

06 脳神経外科

診療各科のご案内

●診察科の紹介

奈良県立医科大学脳神経外科は年間約600件の脳神経外科手術を行っています。
脳腫瘍から、下垂体疾患、脳血管障害（脳卒中)、脊椎脊髄疾患、機能的脳神経外科疾患（てんかん、パーキンソン病、疼痛など)、小児中枢神経疾患（脳腫瘍や水頭症)、頭部外傷まで、幅広い脳神経外科疾患に完全に対応しています。
奈良県の地域医療を担う診療機関の筆頭として、脳神経外科各分野の診療レベルは、いずれも国内の最高水準を維持しています。
常に最新の医療を提供するために、国内のみならず国際的な学術活動および研究に積極的に取り組んでいます。
医療の原点は、病気に苦しむ患者さんを救うこと、すなわち「病人の側に立つ全人的医療」であり、我々のモチベーションは治療を受ける患者さんに理想の医療を提供することです。

●診療内容

外来では、治療や手術についての相談、投薬などの治療を行っています。特殊外来がありますので、疾患ごとに専門家と相談し治療を受けることが可能です。
病棟は主に、急性期治療、特に手術治療を受ける患者さんの入院治療が行われます。
治療内容には、外科手術、血管内治療、定位放射線手術、精密検査（血管撮影検査、ビデオ脳波検査など）頭蓋底腫瘍、深部バイパス手術、水頭症に対する内視鏡手術が含まれます。 下垂体に対する内視鏡手術、脳腫瘍における覚醒下手術、難治性てんかんに対する外科治療、小児脳神経外科は国内有数の症例数です。顕微鏡下脊椎脊髄手術、血管内治療によるコイル塞栓術や血栓溶解療法、動脈瘤、脳腫瘍の成績は国内最高水準を維持しています。

●対象疾患

脳腫瘍：髄膜腫や神経鞘腫、血管芽腫、下垂体線腫等の良性脳腫瘍、神経膠芽腫、悪性リンパ腫、転移性脳腫瘍等の悪性腫瘍、頭蓋底腫瘍
出血性脳血管障害：くも膜下出血、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、脳内出血、海綿状血管腫
閉塞性脳血管障害：脳梗塞、脳血管狭窄・閉塞症、一過性脳虚血発作、もやもや病
機能的障害：てんかん、顔面けいれん、三叉神経痛、舌咽神経痛、パーキンソン病、痙縮、振戦等

●対象治療

脳腫瘍に対する開頭摘出術、覚醒下摘出術、モニタリング及びニューロナビゲーター下摘出術、下垂体腫瘍への経鼻的内視鏡手術、悪性脳腫瘍に対する定位放射線治療（ノバリス)、化学療法
くも膜下出血に対する開頭クリッピング術、各種バイパスを用いた脳動脈瘤根治術、血管内コイル塞栓術
脳梗塞急性期におけるtPA静注療法、血栓回収療法
硬膜動静脈瘻に対する血管内塞栓術、開頭根治術
もやもや病に対する直接、間接血行再建術
難治性てんかんに対する外科治療
小児奇形に対する外科治療
脊椎病変に対する除圧、固定術

●主な検査

MRI,CT,CT脳血管撮影、脳血管撮影、錐体路・視覚路tractography、脊髄造影、脳機能マッピング

●地域の医療機関の先生方へ

奈良県立医科大学脳神経外科は国内最高レベルの医療を提供し最先端の治療を実践しています。脳動脈瘤、脳腫瘍、もやもや病など高難度の手術をMEP、VEP、ICG、5ALA　などの手術支援を使用し安全に行います。下垂体腫瘍、脊椎脊髄疾患を内視鏡やナビ ゲーションによって低侵襲 に治療します。難治性てんかん、小児先天性疾患や悪性 腫瘍に対して集学的治療を行います。更にtPA、ステント、コイル塞栓術、覚醒下脳 腫瘍摘出術、定位放射線治療にて脳外科領域を広くカバーします。 急を要する状態でも24時間対応いたしますのでご連絡ください。

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎医師の指定がない場合は、初診担当医でご予約をお取りします。
（医師の指定がある場合は、希望医の外来日をご指定下さい）
専門医師をご希望の場合は、専門の曜日にご紹介ください。

月	火	水	木	金
初診担当	初診担当	初診担当	初診担当	初診担当
脳腫瘍化学療法	脳血管内治療	脊髄・脊椎	脊髄・脊椎	
	てんかん	小　児	てんかん	てんかん

◎脳脊髄液減少症の患者さんは麻酔科にご紹介ください。

07 心臓血管外科

●診察科の紹介

私たちは“質の高い外科治療を患者さんに提供すること”を目標に掲げ、年間約250例の手術を行っております。大学病院であることを生かし循環器内科、放射線科などの関連各科とも緊密に連絡を取り、最新の検査で正確な診断のもと安全な手術を提供しています。また、心臓、血管の病気は高齢になるほど多くなるため手術を必要とする方も高齢の方が多くなっております。そのため、体の負担をできるだけ軽くする手術（低侵襲手術）を心掛けています。さらに輸血量削減や無輸血手術を目指し、自己血貯血や自己血小板採取などにも積極的に取り組んでいます。

●診療内容

冠状動脈バイパス術では体の負担を減らすために人工心肺装置を用いない“心拍動下冠動脈バイパス術”を第一選択肢にしており、90%以上の患者さんに行っております。僧帽弁閉鎖不全症では可能な限り人工弁を用いない僧帽弁形成術を行っています。これによりワーファリンが不要であり人工弁の劣化の問題も無く手術の質ひいては生活の質（QOL）が向上しています。胸部大動脈瘤では放射線科と合同チームで最新のステントグラフト治療やステントグラフトと手術治療を合わせた“低侵襲ハイブリッド治療”を行い、良い結果を得ています。閉塞性動脈硬化症では重症の下肢虚血に対して末梢の動脈にバイパス術を行うことで足の切断を避けるように治療しています。腸骨動脈より大腿動脈の病変に対してハイブリッド手術を行うことで体の負担を軽減し長期成績も良好です。新手術棟にはハイブリッド手術専門の部屋が設置されており、さらに低侵襲手術が可能になります。また、経カテーテル的大動脈弁置換術も実施準備を進めています。

●対象疾患

心 臓 病：冠状動脈疾患（狭心症、心筋梗塞、左室瘤など）弁膜症（大動脈弁狭窄、大動脈弁閉鎖不全、僧帽弁狭窄、僧帽弁閉鎖不全、三尖弁閉鎖不全など）心臓腫瘍（粘液腫など）
大動脈病：大動脈瘤、大動脈弁輪拡張症（マルファン症候群）、大動脈解離大動脈炎（高安病、炎症性大動脈瘤など）
血 管 病：閉塞性動脈硬化症、ビュルガー病、下肢静脈瘤、リンパ浮腫など

●対象治療

冠状動脈疾患：人工心肺装置を用いない冠状動脈バイパス術
僧帽弁閉鎖不全、大動脈弁輪拡張症：自分の弁を温存した弁形成術（僧帽弁形成術、大動脈弁温存大動脈基部置換術、三尖弁形成術）
経カテーテル的大動脈弁置換術（準備中）
大動脈瘤：体の負担が少ないステントグラフト治療、ステントグラフトを利用したハイブリッド手術
閉塞性動脈硬化症：足を切断から守るためのバイパス手術、体の負担が少ないステントとバイパスとのハイブリッド手術
下肢静脈瘤：体の負担が少ないレーザー治療、うっ滞性皮膚炎に対する内視鏡を用いた異常交通枝切離

●主な検査

心エコー、血管エコー、血圧脈波図（ABI/PWV）、心電図

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎専門によって診察曜日が異なりますので、専門の曜日にご紹介ください。

月	火	水	木	金
血　管	心　臓		心　臓	心　臓

08 整形外科

●診察科の紹介

整形外科は全身の運動器（身体運動に関わる骨、筋肉、関節、神経など）を対象とした診療科です。
扱う疾患は骨折などの急性外傷と変形性関節症などの慢性疾患に大きく2分され、さらに後者は脊椎疾患、関節疾患、腫瘍疾患に分かれます。
また、小児から高齢者まですべての年齢の方を治療いたします。
その疾患形態も子供と大人では全く異なっていることは容易に理解できると思います。
また、骨粗鬆症に原因した高齢者の脆弱性骨折と若者のスポーツ傷害では当然治療方法が異なります。
当整形外科では各分野にエキスパートがおり、実際の診療にあたっては常に連携をとり治療を行っています

●診療内容

- **足**：すねから足先までの外傷や障害や、糖尿病や関節リウマチによる足の障害の治療を行っています。
- **手・マイクロ**：手を始めとする上肢機能の障害（痛み、しびれ）に対して治療を行います。また各種組織欠損に対する組織再建をマイクロ（顕微鏡）を用いて行っています。
- **脊椎**：脊髄の圧迫症状に対する治療と背骨の変形に対しての治療を中心に行っています。
- **股関節**：股関節の障害および、細胞治療の研究やデータ解析研究を行っています。
- **膝関節**：全膝疾患を対象に治療を行い、また培養細胞やナビゲーション等の先端的治療に従事しています。
- **腫瘍**：骨や筋肉などにできる腫瘍を専門に手術加療や化学療法などの治療を組み合わせて診療しています。
- **肩関節**：肩の痛みや機能障害の原因となるあらゆる疾患を対象に診療を行っています。
- **スポーツ**：早期の競技復帰を目指し手術療法だけでなく、保存療法にも力を入れています。
- **関節リウマチ**：関節の再建手術を行う一方で、生物学的製剤を用いて関節破壊の防止に努めています。
- **小児整形**：先天奇形を含む先天性疾患、骨系統疾患、麻痺あるいは障害に伴う変形などの治療に従事しています。
- **玉井進記念四肢外傷センター**：切断指、開放骨折、小児骨折などの緊急度の高い四肢外傷を中心に治療を行います。また、難易度の高い四肢骨折の治療も行います。
- **リハビリテーション**：リハビリテーション医療は障害を扱う、という特徴を持った医療の一分野です。運動療法をその重要な柱の一つとし、脊髄損傷・脳性麻痺・片麻痺・関節リウマチなど幅広い疾患を対象に治療を行います。

●対象疾患

変形性足関節症、外反母趾、先天性内反足、母指CM関節症、三角線維軟骨複合体(TFCC)損傷、骨・軟部組織欠損、腰部脊柱管狭窄症、頚椎症性脊髄症、側弯症、変形性股関節症、特発性大腿骨頭壊死、変形性膝関節症、膝前十字靱帯損傷、肩腱板断裂、変形性肩関節症、良性および悪性骨軟部腫瘍、先天奇形を含む先天性疾患、骨系統疾患、麻痺あるいは障害に伴う変形など

●対象治療

各関節疾患において、変形性関節症に対しては人工関節置換術(ナビゲーション、カスタムメイドを含む)、関節形成術、骨切り術、固定術を、離断性骨軟骨炎に対しては骨軟骨移植やドリリングなどを行っており、変形に対して創外固定器による矯正も数多く手がけています。また、低侵襲治療を目指し様々な関節鏡視下手術にも力を入れています。
再建医学としては人工関節のみならず、腫瘍切除後に生じた欠損部に人工骨・処理骨を用いた再建を行うことに加え、血管をつなぎ合わせて行う複合組織移植にも長い歴史を持っています。
脊髄神経除圧では麻酔科と連携して脊髄保護のため、術中の脊髄モニタリングを併用した安全な手術を心がけています。

●主な検査

レントゲン、CT、MRI、エコーなど

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎専門によって診察曜日が異なりますので、専門の曜日にご紹介ください。

月	火	水	木	金
腫　瘍 小　児 膝 股関節 足	脊　椎 膝 手 足	腫　瘍 肩 手 股関節 足		腫　瘍 脊　椎 肩 手 足

◎膠原病、リウマチの患者さんはリウマチセンターにご紹介ください。

09 歯科口腔外科

診療各科のご案内

●診察科の紹介

口腔・顎顔面領域に生じるあらゆる疾患を対象とし、先進的で高度な専門的治療を行っております。 主な疾患としては、口腔・顎顔面領域の良性および悪性腫瘍（癌)、顎顔面外傷（骨折、歯牙破折、脱臼、軟組織外傷)、顎変形症、顎関節症、口唇口蓋裂、歯性感染症、歯顎矯正、口腔乾燥症（ドライマウス)、口腔インプラント、口腔粘膜疾患などです。原則的に一般の歯科治療は行っておりませんが、当院入院中であったり、全身疾患のため地域歯科医療機関での治療が困難な方には行っております。

●診療内容

口腔顎顔面領域に生じるすべての疾患を対象とし、各疾患の専門医を中心としたチームによる治療を行っています。当科には日本口腔外科学会をはじめ、がん治療専門医、インプラント専門医、顎関節症専門医、感染症専門医、口腔顎顔面痛専門医、睡眠歯科専門医など口腔外科に関連する各種学会の指導医や専門医が多数在籍しており、エビデンスに基づいた高度で安全な治療を提供することにより、患者様のQOL（生活の質）の向上に貢献できるよう努力しています。
また、口腔腫瘍外来、外傷外来、顎関節外来、睡眠歯科外来、口腔顔面痛外来、口腔インプラント外来、口腔乾燥症外来、歯顎矯正外来、口腔ケア外来などの専門外来を設け、診療の効率化と高度で専門的な診療を行っています。年間の手術件数は、悪性腫瘍などの入院手術が約300件、抜歯などの外来小手術が約1200件で、公的基幹施設である大学附属病院の診療科として院内他科とも十分な連携をとり包括的治療を行っています。

●対象疾患

口腔顎顔面各領域の悪性腫瘍(癌)、良性腫瘍、嚢胞、口唇裂口蓋裂、顎変形症、口腔感染症、嚢胞、顎顔面骨骨折、歯牙破折などの外傷、顎関節疾患、炎症(顎骨炎、膿瘍、歯性感染症)、口腔粘膜疾患、口腔乾燥症(ドライマウス)、神経系疾患、唾液腺腫瘍を始めとする各疾患、口腔顎顔面痛、摂食・嚥下障害、スポーツ歯科、睡眠時無呼吸症候群などが対象です。

●対象治療

口腔癌、口腔顎顔面再建、口腔インプラント、歯科矯正、顎顔面補綴、各種治療中の口腔ケア、全身疾患や障害のある患者様の全身麻酔下での歯科治療も行っています。

●主な検査

顎機能検査、歯科金属アレルギー検査、味覚検査などを行っております。

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎医師の指定がない場合は、初診担当医でご予約をお取りします。
（医師の指定がある場合は、希望医の外来日をご指定下さい）

月	火	水	木	金
	初診担当医		初診担当医	初診担当医
				インプラント

10 産婦人科

●診察科の紹介

産婦人科は生命のスタートである妊娠から、胎児期、新生児期、小児期、思春期を経て次世代を生み育て、さらに更年期や熟年時代まで、女性の生涯に渡る良きパートナーとして医療を通じた支援を行っています。妊娠出産の際にお母さんや赤ちゃんを守る医療（周産期医療）については県下唯一の総合周産期母子医療センターとして高度な最先端医療を提供する一方、正常な経過の妊婦さんには助産師を中心としたメディカルバースセンターでの出産も取り扱っています。また、婦人科悪性腫瘍の診療にも力を入れており、周産期医療とともに県内の「最後の砦」として多くの患者さんを治療しています。このほか、不妊症や女性を悩ませる特有の疾患（子宮筋腫、子宮内膜症など）の診療を幅広く行っています。

●診療内容

総合周産期母子医療センターでは様々な合併症を持った妊婦さんや、切迫流早産、妊娠高血圧症候群や前置胎盤などの周産期合併症、赤ちゃんの先天異常のほか、常位胎盤早期剥離や産後出血等の母児救急を24時間体制で応需し、助産師が中心のメディカルバースセンターと合わせて年間1000件近い分娩に対応しています。この他、新型出生前診断であるNIPTを県下で唯一実施しており、遺伝専門医による遺伝カウンセリングも行っています。婦人科疾患では婦人科腫瘍専門医が中心となって子宮癌、卵巣癌などの女性生殖器の悪性腫瘍の集学的治療（手術療法、抗癌剤治療、放射線治療）を行っています。女性の生活の質（QOL）を損なう子宮筋腫、子宮内膜症や骨盤臓器脱（子宮脱）の治療も積極的に行っています。また、良性疾患の手術療法では内視鏡技術認定医による腹腔鏡や骨盤臓器脱に対するメッシュ手術など、低侵襲手術を心がけています。外来通院では一般不妊治療、月経痛、過多月経、月経周期異常、思春期の異常、更年期障害など、女性の生涯にわたるヘルスケアの医療を提供しています。

●対象疾患

- 妊娠や出産に関する全ての疾患（合併症妊娠、切迫流早産、妊娠高血圧症候群、前置胎盤、胎児異常、習慣流産等）
- 近隣の医療機関で発生した母児救急疾患の三次救急
- 子宮頸癌、子宮体癌、子宮肉腫、卵巣癌、外陰癌
- 子宮筋腫、卵巣のう腫、子宮内膜症、骨盤臓器脱などの良性疾患
- 性分化異常、思春期の性ホルモン異常、性感染症、月経に関する異常（月経痛、過多月経、月経周期異常）、更年期障害、一般不妊症

●対象治療

- 合併症妊娠：薬物療法や入院管理、緊急帝王切開術
- 良性疾患：開腹手術（単純子宮全摘術、卵巣腫瘍核出術、筋腫核出術、両側付属器切除術）、腹腔鏡手術、ホルモン療法などの薬物療法
- 婦人科癌：広汎子宮全摘術、骨盤・傍大動脈リンパ節郭清術。腹腔鏡手術を良性疾患だけでなく、悪性疾患に対しても積極的に導入しています。初期の子宮体癌に対しては腹腔鏡下の根治術が可能です。
- 子宮内膜病変：腹部を切開する必要がない子宮鏡を用いた低侵襲手術を行っています。
- 骨盤臓器脱：子宮脱に対して開腹する必要がない経腟的な子宮摘出術や前後腟壁形成術を行います。

病理医、放射線科医との合同カンファレンスを経て治療方針を決定しています。また、当院腫瘍センターとの連携で外来通院化学療法を積極的に取り入れています

●主な検査

膣鏡、子宮鏡、コルポスコピー、超音波検査、子宮卵管造影、ホルモン負荷試験、CT・MRI画像検査、基礎体温測定、精液検査、染色体検査、不育症検査（抗リン脂質抗体など）、がん検診（細胞診・組織診）、腫瘍マーカー

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎専門によって診察曜日が異なりますので、専門の曜日にご紹介ください。

月	火	水	木	金
婦人科	婦人科	婦人科	婦人科	産　科
産　科	産　科	産　科		

◎バースセンターを希望される場合は、まず産科にご紹介ください。

◎出生前検査で、NIPTの予約やご相談については、
患者さんから直接、産婦人科外来へお問い合わせください。

11 小児科

●診察科の紹介

奈良県立医科大学小児科は未来を担う子どもたちの健康を守り、また、小児医療に対する多様なニーズに対応するべく教室員一同、日夜診療、教育そして研究に励んでいます。

●診療内容

奈良県立医科大学小児科は小児診療において、一般小児疾患はもとより、血液、腫瘍、循環器、神経、腎臓/膠原病、感染症、内分泌を重点的専門領域としています。
平成23年には小児センターが開設され、現在は奈良県下唯一の24時間体制で高度小児医療を実践する施設として機能しています。
また、新生児集中治療部では、県下唯一の総合周産期母子医療センター認可施設で、ハイリスク新生児（超低出生体重児、小児外科疾患、先天性心疾患など）の診療を行っています。
さらに小児救急医療では救急科や麻酔科・ICUと連携して3次救急医療施設としての役割も担っています。
また、多数の関連病院と連携して奈良県下や大阪地区の地域小児医療にも貢献しています。

●対象疾患

血液（血友病などの凝固異常症）、腫瘍（血液・固形）、循環器（先天性心疾患など）、
神経（てんかん、神経筋疾患など）、腎臓、膠原病、小児感染症、小児内分泌・栄養

●対象治療

血液（血友病などの凝固異常症）、腫瘍（血液・固形）、循環器（先天性心疾患など）、 神経（てんかん、神経筋疾患など）、腎臓、膠原病、小児感染症、小児内分泌・栄養 などについて専門的な検査、治療を行います。

●主な検査

血液検査（凝固止血検査）、超音波検査（心臓・腎臓）、脳波（ビデオ脳波）、
CT、MRI、心臓カテーテル検査、腎生検、筋生検、髄液検査

●地域の医療機関の先生方へ

基礎疾患のない児の通常の肺炎・気管支炎、扁桃炎や急性胃腸炎あるいはインフルエンザ、RSウイルス感染症、ロタウイルス感染症、ノロウイルス感染症などの感染症については、重症例を除き、受け入れ困難です。

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎専門によって診察曜日が異なりますので、専門の曜日にご紹介ください。

月	火	水	木	金
初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医
血　液	血　液	血　液	血　液	血　液
内分泌	内分泌	発　達	内分泌	
神　経	感染症	神　経	腫　瘍	
		腎　臓		
	循環器(午後)	膠原病		循環器(午後)

◎ダウン症の発達フォローについては新生児外来宛にご紹介下さい。
（ただし、症状によっては各専門科・小児科の専門外来にご紹介下さい）

◎夜尿症の患者さんは泌尿器科の小児担当にご紹介下さい。

◎シナジス接種については予約できません。

11 新生児外来

診療各科のご案内

●診察科の紹介

新生児外来は当院NICUを退院されたお子様や、発達のフォローが必要なため他院のNICUを退院され、紹介されたお子様を診療しています。

●診療内容

新生児期にNICUに入院し、呼吸・循環・形態的な疾患や、早産に関連する治療を受けたお子様が自宅退院した後、継続した治療や発達のフォローを行います。
外科治療（小児外科、脳外科、心臓循環器外科、整形外科）を受けられたお子様も外科の先生と連携をとってフォローさせていただいております。
また、早産児の未熟児網膜症や小児難聴の診断と治療は、退院後、それぞれ担当の眼科医や小児耳鼻咽喉科医が診療を行っています。
臨床遺伝専門医が遺伝相談も含め支援を行っています。

退院後も在宅医療を必要とするお子様は、理学療法や摂食訓練、口腔ケアや自宅や学校での生活状況の確認を行っています。

NICU退院後の支援は月～金曜日に新生児外来（初診は月、水）、水曜日（+第一月曜日）に臨床心理士による発達外来で行っています。

●対象疾患

早産児、低出生体重児、新生児仮死、呼吸障害（新生児呼吸窮迫症候群、新生児一過性多呼吸、気胸など）、重症黄疸、感染症（先天性、後天性）、血液疾患、先天性奇形・症候群
消化器外科疾患（先天性横隔膜ヘルニア、小腸閉鎖、鎖肛、食道閉鎖、臍帯ヘルニア、腹壁破裂など）
循環器疾患（不整脈、先天性心奇形、心筋疾患）
脳外科疾患（水頭症、二分脊椎、脊髄髄膜瘤など）

●主な検査

血液、尿検査
呼吸機能検査、脳波検査
超音波検査（頭部、心臓、腹部）
レントゲン検査
発達検査

●地域の医療機関の先生方へ

新生児外来を受診ご希望の方は、事前に地域医療連携室でご予約をおとりください。

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎診療科と調整のお時間をいただきます。
◎月曜日、水曜日にご紹介ください。

月	火	水	木	金
初診担当医		初診担当医		

12 眼科

診察科の紹介

人間は五感から様々な情報を得ています。中でも視覚器官(目)からは、全体の約90%もの多くの情報を得ていると言われています。健全な視機能を維持していくことは円滑な社会生活を送っていくうえで大変重要です。しかし白内障や緑内障、角膜炎、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性など、視機能を低下させてしまう疾患はたくさんあります。眼科では患者さんの視機能の維持や改善のために様々な治療を行っています。点眼や内服を中心とした内科的治療、また手術や処置を中心とした外科的治療など最先端の治療を行っています。患者さんに対する最適な治療を考える診療を行い、地域医療に貢献しています。

診療内容

前眼部画像解析測定装置(ペンタカム)、超音波検査、光干渉断層計(OCT)、OCT血管撮影、蛍光造影眼底撮影、広角眼底撮影装置、血流測定、多局所網膜電位図測定装置など最新の検査機器を使用し、総合的な診断を行っています。
角膜疾患、緑内障、斜視弱視、神経眼科、涙道疾患、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜剥離、黄斑円孔などの網膜硝子体疾患に対する治療を行っています。それぞれの疾患に対し専門外来を設け、患者さんの治療に専門的にあたっています。

対象疾患

- 小児眼科、神経眼科：弱視、斜視
- 白内障
- 涙道・眼窩疾患：鼻涙管閉塞、涙嚢炎
- 角膜疾患：ドライアイ、角膜炎、角膜混濁、水疱性角膜症、円錐角膜など
- 網膜硝子体疾患：糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、黄斑疾患、加齢黄斑変性など
- 緑内障
- 炎症性疾患：ぶどう膜炎など

対象治療

白内障に対する眼内レンズ挿入術、角膜混濁に対する角膜移植、緑内障手術(レーザー、流出路再建術、濾過手術)、増殖糖尿病網膜症、網膜剥離、硝子体出血や黄斑円孔に対する硝子体手術、加齢黄斑変性や黄斑浮腫に対する抗VEGF硝子体注射など。
原因疾患により手術による外科的治療や、点眼や内服などによる内科的治療を行っています。

主な検査

視力検査、眼圧検査、眼底検査などの一般的な検査の他、視野検査、超音波検査、光干渉断層計(OCT)や蛍光造影眼底撮影、血流測定、多局所網膜電位図測定装置など最新の検査機器を使用した検査を行っています。

地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎月曜日、火曜日、木曜日にご紹介ください。

月	火	水	木	金
初診担当医	初診担当医		初診担当医	

13 耳鼻咽喉・頭頸部外科

●診察科の紹介

当科は1945年に倉田が奈良県立医学専門学校の耳鼻咽喉科初代教授として開講、続いて内海、1973年に山中、1980年に松永、そして1999年から2014年3月末まで細井が担当、そして2014年5月からは北原が現在の耳鼻咽喉・頭頸部外科学を担当しています。めまい・難聴の歴史ある科であり、中耳炎に対する鼓室形成術、耳硬化症に対するアブミ骨手術、顔面神経麻痺に対する顔面神経減荷術、メニエール病に対する内リンパ嚢開放術、良性発作性頭位めまい症に対する半規管遮断術、両側高度感音難聴に対する人工内耳埋込術を含む、中耳および内耳の手術治療に力を入れています。

●診療内容

めまい・難聴に対する手術治療に力を入れる一方、当施設は癌拠点病院であり、奈良県下に多くの癌患者さんがおられます。当科では、大阪府立成人病センター、大阪府立急性期総合医療センター、愛知県がんセンター、国立がんセンター、兵庫県隈病院での国内研修から帰学した癌専門医が、頭頸部腫瘍外科、頭頸部腫瘍内科として活躍しています。頭頸部癌分野は当科の大きな柱の一つです。さらに、鼻副鼻腔・アレルギー、嗅覚・味覚、音声・嚥下にも焦点を当てて診療しています。

●対象疾患

耳鼻咽喉・頭頸部外科領域の各種疾患に対して次の９つの専門外来で対応しています。
１．耳科・神経耳科外来、2.めまい・耳科手術外来、3.難聴外来、4.難聴・補聴外来、
5.小児難聴外来、6.耳鳴・顔面神経麻痺外来、7.鼻 副鼻腔・アレルギー外来、
8.腫瘍外来、9.音声外来

●対象治療

専門外来で診断の上、疾患に応じて外来もしくは入院治療を行っています。
大学病院の特性上、一般的な外耳炎、中耳炎、鼻炎、副鼻腔炎、咽喉頭炎などに 対する処置は基本的には行っていません。 アレルギー性鼻炎に対する免疫療法は現時点では行っていません。またアレルギー性鼻炎に 対するレーザーを用いた鼻粘膜焼却術も実施していません。

●主な検査

聴覚機能検査、平衡機能検査、補聴器適合検査、ENoG、味覚検査、嗅覚検査、内視鏡検査、エコー、穿刺吸引細胞診など

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎医師の指定がない場合は、初診担当医でご予約をお取りします。

月	火	水	木	金
初診担当医		初診担当医		初診担当医
補聴器				
人工内耳				
小　児		小　児		

◎専門外来については予約できません。まずは初診担当医にご紹介ください。

◎睡眠時無呼吸症候群の患者さんは呼吸器内科にご紹介ください。

14 皮膚科

●診察科の紹介

皮膚科学教室は昭和38年11月に開設され、関連病院とともに、奈良県における皮膚科診療の中核を担っています。
皮膚科専門医、アレルギー専門医、皮膚病理専門医のスタッフが在籍し、高レベルの診断、治療を行っています。
現在まで多数の皮膚科専門医の育成にも貢献してきました。
主な研究・診療のテーマは、「皮膚免疫・アレルギー」、「水疱症」、「ウイルス性皮膚疾患」、「紫外線による皮膚障害」、「創傷治癒・皮膚の再生」、「皮膚病理組織学」など多岐に渡り、臨床への還元を目指した研究に日々取り組んでいます。
特に、「免疫・アレルギー」については、日本アレルギー学会認定教育施設として、アレルギー専門医の育成にも力を注いでいます。

●診療内容

皮膚疾患一般の診療に加え、専門的な検査・治療が必要な皮膚疾患の患者を受け入れております。
アレルギー疾患、薬疹などでは、治療とともに検査をきめ細かく行い、原因究明に努めています。
皮膚腫瘍の手術に関しても形成外科と連携して、QOLをできるだけ向上させるような方法を工夫しております。特に皮膚がんに関しては診断、手術、化学療法など奈良県ではトップクラスの実績を有しています。
皮膚のcommon diseaseにおいても通常治療では難治の患者様には、検査、生活指導などを行っております。
検査では病理検査、パッチテスト等の皮膚アレルギー検査、ダーモスコピーやエコー、サーモグラフィーによる非侵襲的な皮膚検査、紫外線過敏症検査などを行っております。

●対象疾患

皮膚疾患一般、アレルギー性皮膚疾患、ウイルス性皮膚疾患、薬疹、膠原病、
水疱症、皮膚腫瘍、白斑、乾癬、脱毛症、難治性皮膚創傷その他

●対象治療

アレルギー皮膚疾患の精査、治療
手術や化学療法、分子標的薬などを含めた皮膚腫瘍治療
ナローバンドUVB、PUVAなど紫外線療法
乾癬の生物学製剤治療
血管腫やいぼのレーザー治療
自己免疫性水疱症などのステロイド療法、ガンマグロブリン大量静注療法など

●主な検査

皮膚病理検査、パッチテスト等の皮膚アレルギー検査、
ダーモスコピーやエコー、サーモグラフィーによる非侵襲的な皮膚検査、紫外線過敏症検査など

●地域の医療機関の先生方へ

●手術の必要な患者様については当科受診の後、さらに形成外科も受診していただく場合があります。
●初診日にすべての検査、処置が行えるわけではありません。後日に実施する検査、処置もあります。
●アナフィラキシー等、重症のアレルギーの検査は入院での実施となります。
　また皮膚症状の出ないタイプでは原因検査は実施困難です。
●まき爪の矯正治療は自費診療になります。

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎医師の指定がない場合は、初診担当医でご予約をお取りします。

月	火	水	木	金
初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医

15 泌尿器科

●診察科の紹介

泌尿器科学は、本来外科学の一分野でありますが、外科治療のみで全てが解決できるものではありません。最新の薬学や医療工学の成果を駆使し、個々の患者さんに最適の治療法を提示し、患者さんと共に選択し、常に日常生活の質（QOL）を重視した診療を心掛けています。当科の主要な診療領域は、泌尿器悪性腫瘍、排尿機能障害、腎不全・腎移植、小児泌尿器疾患でありますが、高齢社会となった日本の医療におきましては、今後も泌尿器科領域の診療の需要は益々増大するものと考え、これらの領域を診療と研究の柱としてプライマリケアから高度先進医療まで担ってまいります。
“自分の親なら、子供ならどうする？”が診療姿勢の基本であります。

●診療内容

腎がんの無阻血腎温存手術、膀胱がんの光力学診断、前立腺がんの小線源療法（ブラキテラピー）、各種泌尿器科手術における腹腔鏡・ロボット支援手術の導入など、根治性の高い低侵襲治療を推進しています。
また各種進行がんについては、難易度の高い外科治療に併せて、化学療法や放射線療法による集学的治療を積極的に行っています。
排尿障害については、男性の前立腺肥大症と女性の尿失禁に対する外科治療、過活動膀胱や夜間頻尿と睡眠障害を診療・研究のテーマにしています。
腎不全・移植領域では、県内の関連施設と共に透析医療の管理と生体腎移植を推進し、腎移植症例は年間15件程度実施しております。
また、わが国の未来を担う子供たちに降りかかる健康上の問題を解消するため、小児泌尿器科を専門性の高い領域のひとつとして認識し、低侵襲腹腔鏡手術や高度な尿路形成術など小児泌尿器科の診療充実を図っております。
奈良県、大阪府、三重県下の関連病院29施設ならびに常勤医90名と連携し、患者さんを広域から受け入れる体制も整っています。

●対象疾患

- 尿路性器がん：腎、尿路（腎盂・尿管・膀胱・尿道）、前立腺、精巣、陰茎、副腎腫瘍など
- 排尿障害：前立腺肥大症、夜間頻尿、過活動膀胱、間質性膀胱炎、尿失禁、前立腺炎など
- 小児泌尿器疾患：停留精巣、陰嚢水腫、尿道下裂、膀胱尿管逆流症、水腎症、二分脊椎、夜尿症、尿道狭窄、包茎など
- 女性泌尿器疾患：腹圧性尿失禁、骨盤臓器脱など
- 腎不全：腎移植、透析療法、上皮小体（副甲状）機能亢進症など
- 尿路結石、尿路性器感染症、外傷など救急疾患も対応しております

●対象治療

- 尿路性器がん：腹腔鏡・ロボット手術や内視鏡手術の導入
- 各種進行がんについては、外科治療に併せて化学療法や放射線療法による集学的治療
- 排尿障害：男性の前立腺肥大症と女性の尿失禁や骨盤臓器脱に対する外科治療
  前立腺全摘除術後尿失禁に対する人工尿道括約筋植え込み術、女性の漢方薬治療
- 腎不全・移植領域：県下唯一腎移植施行施設、県内の関連施設と共に透析医療の管理
- 小児泌尿器科：低侵襲な腹腔鏡手術や高度な尿路形成術など小児泌尿器科の診療充実を図っております。

●主な検査

尿路内視鏡検査、尿流量測定（奈良医大で開発した携帯式在宅検査）、膀胱内圧測定、泌尿器放射線検査、前立腺超音波検査、前立腺生検

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎医師の指定がない場合は、初診担当医でご予約をお取りします。
（医師の指定がある場合は、希望医の外来日をご指定ください）

月	火	水	木	金
初　診		初　診	初　診	初　診
腫　瘍		腫　瘍	腫　瘍	腫　瘍
小線源療法		小　児	移植・透析	移植・透析
ロボット手術		女　性	尿失禁・女性	ロボット手術

16 精神科

●診察科の紹介

精神科では、小児期から老年期までのあらゆる精神疾患を対象に、専門的な診断および治療を行っております。
血液検査、画像検査、心理検査、脳波検査などを用いた診断にもとづき、薬物療法、心理療法、修正型電気けいれん療法、通所デイケア、リワークプログラムなどの一人一人の患者様に適した多角的な治療を行っております。
併設の認知症疾患医療センターでは、高度な鑑別を必要とする認知症診断と治療を行っており、児童思春期外来では、児童精神科医が発達障害などの専門的診療を担当させて頂いております。
予約診察のみを行っている曜日もございますので、来院の際にはご確認頂きますようお願い申し上げます。

●診療内容

初診の方は月、火、木、金曜日に午前１１時までに受付してください。
大変混み合っておりますので、受付順に昼頃までに予診を行った後、本診はお昼過ぎ～夕方になります。詳細は精神科外来までお問い合わせください。
当科の特徴として、緊急の対応を要す超急性期入院治療、透析や手術を要す方々や妊婦さんの精神科的治療を行っています。入院は外来主治医の判断により、入院予約の手続きがされた後、空き状況にあわせて順次入院していただきます。基幹病院であること、病床数が限られている中で多くの患者さんに有効に利用していただくため、入院期間は３ヶ月以内を目安としています。他病院からの緊急の入院紹介はケースワーカー、病棟医長が窓口となり、外来受診を経て入院となります。

当科独自のホームページも用意しておりますので、ご参照下さい。
（検索：奈良医大＆精神科）

●対象疾患

統合失調症、躁うつ病、うつ病、認知症、不安神経症、強迫神経症、パーソナリティ障害、注意欠如多動性障害、自閉スペクトラム症、ＰＴＳＤ、アルコール依存症、薬物依存症、てんかんなど。

●対象治療

外来患者さんに対し、薬物療法、精神療法、通所デイケア、リワークプログラムなどを行っています。デイケアではコンピュータプログラムを用いた認知リハビリーテーションも行っています。

入院患者さんに対し、薬物療法、精神療法の他、修正型電気けいれん療法、高照度光療法、難治性統合失調症患者様に対するクロザリル®を用いた治療、などの専門的治療を行っています。

●主な検査

血液・髄液検査（疾患特異的な抗体検査含む）、ＣＴ検査、ＭＲＩ検査、脳波検査、近赤外線スペクトロスコピィ検査、各種心理検査などを適宜行っています。

●地域の医療機関の先生方へ

奈良医大精神科では、認知症や発達障害などの専門的検査を必要とする疾患の診断・治療を行っていますが、診断目的でのご紹介も歓迎です。また、難治性の統合失調症やうつ病患者様に対してはクロザリル®を用いた治療や修正型電気けいれん療法を速やかに導入すべき症例もありますので、まずはご紹介頂き、その必要性、有用性などにつき検討させて頂けたら幸いです。

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎水曜日にご紹介ください。

月	火	水	木	金
		初診担当医		

◎専門医のご予約はお取りできません。
（児童思春期外来・物忘れ外来など、専門外来については、事前に診療科へお問い合わせください）

◎認知症の患者さんのご紹介は、認知症疾患センターにお問い合わせください。

17 放射線科

●診察科の紹介

放射線科は「画像診断」と「画像下治療(IVR)」という二つの分野を担当しています。放射線科外来へは主に画像下治療(IVR)の適応患者さんをご紹介頂いております。IVR(Interventional　Radiolgy)はX線透視、血管造影、超音波(エコー)、CTなどの画像器機を用いて、カテーテルや細い針を体内に挿入して、患者さんの負担を軽く低侵襲に病気を治す最新の治療法です。アイ・ブイ・アールと呼ばれることが多いですが、日本語では画像下治療と訳されています。奈良医大放射線科はIVRのパイオニアであり、現在も全国屈指の症例数を行っています。2014年にIVRセンターが設立され、県内外から幅広く適応患者さんを受け入れております。

画像診断はCT・MRI、超音波(エコー)、血管造影、消化管・尿路造影などの画像検査を駆使し、疾患の有無・病態・病期診断を行っております。2016年に総合画像診断センターが設立され、様々な領域や疾患において、各種モダリティーによる画像所見から統括的な画像診断を行っております。

●診療内容

- IVR：IVRの適応の有無を判断し、適応があれば放射線科外来で詳しく治療内容を説明し、後日、放射線科病棟入院の上でIVR治療を行います。退院後は外来通院で定期的に経過観察をさせて頂きます。治療および外来診療は日本IVR学会認定専門医・指導医が担当します。
- 画像診断：画像診断に難渋する症例があれば随時コンサルトを受け付けております。放射線画像診断専門医が担当します。

●対象疾患

主なIVRの適応疾患
脳血管領域：脳動脈瘤、頸動脈狭窄、硬膜動静脈瘻など
大血管領域：胸腹部大動脈瘤、大動脈解離、大動脈狭窄閉塞など
末梢血管領域：閉塞性動脈硬化症(腸骨大腿動脈閉塞)、下肢重傷虚血、急性血栓閉塞症、腎動脈狭窄症、透析シャント閉塞など
胸腹部血管領域：内臓動脈瘤、血管奇形、出血(喀血、消化管出血、内臓出血)、胃静脈瘤など
腫瘍領域：肝細胞癌、転移性肝癌、膵臓癌、閉塞性黄疸、子宮筋腫など
整形領域：椎体圧迫骨折、関節の慢性疼痛など
がん症状緩和領域：難治性腹水、消化管通過障害、骨転移による疼痛、大静脈閉塞など

●対象治療

主なIVR内容
動脈瘤コイル塞栓術、ステントグラフト留置術、血管拡張術、ステント留置術、止血術、動脈化学塞栓術、ラジオ波凝固療法、動注リザーバー留置術、胆道ドレナージ・ステント留置術、経皮的椎体形成術、デンバーシャント、消化管ステント留置術、中心静脈ポート留置術など

●主な検査

CT,MRI,超音波,血管造影,ABI検査

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎専門によって診察曜日が異なりますので、専門の曜日にご紹介ください。

月	火	水	木	金
大血管 末梢血管	脳血管 腫　瘍	大血管 末梢血管		大血管 末梢血管

18 放射線治療・核医学科

●診察科の紹介

「放射線治療」と「核医学検査・治療」という二つの分野を担当しています。 放射線治療は、エックス線などの放射線によるがんの治療で、最先端の技術による「切らずになおす治療」として注目されています。がんの種類によっては、手術と同等の効果が得られ、さらに手術できないがんの一部にも有効です。また、がんによる苦痛の軽減（緩和）にも役立っています。核医学検査・治療は、薬品から放射線が出てくる「放射性医薬品」を使用しておこなう検査や治療です。

●診療内容

●放射線治療：がんをなおすことを目的とした根治的な治療から、痛みや苦痛をやわらげる目的の緩和治療までおこなっています。がんの形にあわせて正確に放射線を照射する治療（強度変調放射線治療、定位放射線照射、他）、画像診断の技術を利用して正確に位置をあわせる治療（画像誘導放射線治療）が可能です。2016年度中に高精度の放射線治療機器であるリニアック４台（TrueBeamSTx（Novalis仕様）、TrueBeam、Trilogy、Novalis）の体制となり、また、子宮がんなどの局所治療用の小線源治療装置1式は画像誘導放射線治療に対応可能となります。さらに、前立腺がんの永久挿入治療設備1式が稼働しています。毎日、多数の患者さんの診察、治療を行っていますが、大部分の患者さんは他の診療科や他の病院からの紹介です。各科と連携して抗がん剤や手術などと放射線を組み合わせる治療もおこなっています。

●核医学検査：投与した放射性医薬品から出てくる放射線を体の外から検出して、画像診断や機能検査をおこないます。

●核医学治療：放射性医薬品ががんなどに特異的に取り込まれる特徴を利用して治療をおこないます。

●対象疾患

●放射線治療：多くの腫瘍（特にがん）および一部の良性疾患が治療の対象になります。脳腫瘍（原発性、転移性）、頭頸部がん（喉頭がん、咽頭がん、口腔がん、他）、食道がん、肺がん、乳がん、前立腺がん、子宮がん、悪性リンパ腫、骨腫瘍（原発性、転移性）、軟部腫瘍（肉腫）、皮膚がんなどの治療をよくおこなっています。ただし、がんの種類によって、手術の方が望ましい場合、手術と放射線治療が同等の場合、手術ができなくても放射線でなおせる場合などがあります。がんの脳転移、骨転移などは緩和目的の放射線治療の対象になります。

●核医学検査：脳、心臓、肺、腎（主に機能検査）、骨、腫瘍（主にがんの検査）などが対象です。

●核医学治療：バセドウ病、甲状腺がん、がんの骨転移、悪性リンパ腫などの一部が対象です。

●対象治療

がんの形にあわせて正確に放射線を照射する治療（強度変調放射線治療、定位放射線照射、他）
画像診断の技術を利用して正確に位置をあわせる治療（画像誘導放射線治療）
子宮がんなどの局所治療
前立腺がんの永久挿入治療 など

●主な検査

核医学検査　画像診断や機能検査

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎診療科と調整のお時間をいただきます。

19 ペインセンター

●診察科の紹介

ペインクリニックは様々な痛みの治療を行う診療科です。当科の特徴は神経ブロック治療です。レントゲン透視装置や超音波装置を駆使して施行し、痛みを緩和します。背髄刺激療法などの低侵襲治療も盛んに行っています。もちろん内服治療、漢方治療なども集約的に行っています。
頚椎・腰椎疾患、関節痛などの運動器疾患を整形外科医と連携しながら多く診ております。

●診療内容

私たちは痛みの原因を診断し、その痛みを緩和するために注射の治療（＝ブロック治療）を行います。ブロック治療とはトリガーポイントブロックや硬膜外ブロック、神経根ブロックなどさまざまな注射の治療の総称です。
良いブロック治療を行うためには痛みの診断が重要です。初診の患者様には時間を取ってお話を伺い、神経学的所見を取ります。心理学的検査、レントゲン検査、MRI検査も随時行います。またブロック治療は安全な治療ですが、採血を行って全身状態の把握も行います。内服されているお薬や全身状態からブロック治療が施行できないこともありますが、専門的に内服治療の調整も行います。
また、漢方薬治療や低侵襲手術も行っています。

●対象疾患

急性期帯状疱疹、帯状疱疹後神経痛
三叉神経痛、頭痛、むち打ち、末梢神経障害、複合性局所疼痛症候群、顔面神経麻痺など
脳脊髄液減少症、低髄液圧症候群
硬膜外自家血パッチ術は先進医療として認められています。
（現在、多汗症に対する交感神経遮断術は施行しておりません。）

●対象治療

ブロック治療：トリガーポイントブロック、硬膜外ブロック、星状神経節ブロック、神経根ブロック、椎間関節ブロック、交感神経節ブロック、三叉神経ブロック、各関節ブロック（膝・肩・股関節など）、腹腔神経叢ブロック、硬膜外自家血パッチなど。ラジオ波を使った各神経の熱凝固法も行います。
低侵襲手術：脊髄刺激療法や硬膜外脊髄刺激療法など

●主な検査

一般的な画像検査・採血検査に加え、心理テストも行います
脳脊髄液減少症では脊髄造影CTなどを施行します

●地域の医療機関の先生方へ

帯状疱疹痛や椎間板ヘルニアなどの急性痛は早期にブロック治療することが重要です。
地域連携室にご相談いただければ対応させていただきます。
抗血小板薬や抗凝固薬内服中は原則的にブロック治療が禁忌となっています。
内服薬中止の可否についてもご連絡いただけると幸甚です。

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎完全予約制※ですので、ご予約をお取りください。

月	火	水	木	金
初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医

◎※ブロック治療後には10分～1時間程度の安静時間を要します。
安静ベッドは10床であるため、患者さんを診察できる数は限られています。
このためペインセンターは完全予約制となっております。

21 総合診療科

●診察科の紹介

総合診療科では、患者様を総合的に診る診療科として、全身を意識した医療、患者様の背景を意識した医療、患者のこころに寄り添う医療を目指しています。
丁寧な問診、丁寧な診察をモットーに県内のターミナルホスピタルとして、見逃すことのできない責任感のもとに診断、治療に取り組んでいます。

●診療内容

内科新患患者様の診療、体調不良、生活習慣病、どこの科でも診療対象になりにくい症状（不明熱、体重減少、全身倦怠感など）の診療を行い診断、治療を行います。
また、地域の先生方からの診断・治療の難しい患者様の紹介を受けております。
当科で治療が完了する場合もありますし、精査ののち、専門科での治療が必要と判明した場合は、専門科に紹介しています。 外来では、どの科で診療を受けたらよいかわからない患者様の適切な専門科紹介なども行っています。

●対象疾患

●新規の内科疾患
●どこの科でも診療対象になりにくい症状（不明熱、体重減少、全身倦怠感など）
●地域の先生方からの診断、治療の難しい疾患
●体調不良、発熱、生活習慣病など

●対象治療

当科で精査を行い、生活習慣病などの慢性疾患が判明した場合は、当科にて必要な検査、治療を行います。症状が安定されましたら、継続診療はかかりつけ医として地域の医療機関へ御紹介し、そちらへ通院して頂くようお願いしております。

●主な検査

症状に応じて行います。

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎医師の指定がない場合は、初診担当医でご予約をお取りします。
（医師の指定がある場合は、希望医の外来日をご指定下さい）

月	火	水	木	金
初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医

22 感染制御内科

診療各科のご案内

●診察科の紹介

感染症とは、病原性の微生物がヒトの体に侵入して引き起こす疾患です。例えば「風邪」はライノウイルスやRSウイルスなどのウイルスが原因となる感染症ですし、肺炎だと肺炎球菌やマイコプラズマなどの細菌が原因となります。また、アスペルギルスなどの真菌（カビの一種です）は、健康な方には感染症を起こしませんが、免疫力が低下した患者では感染症を起こすことがあります。ウイルス感染症の多くは自然に治癒しますし、細菌感染症などでも多くは抗生物質の投与により治癒します。しかし、病原性の高い微生物による重篤な感染症や免疫力が極度に低下した患者の感染症などでは専門的な知識や経験が必要になり、私たちの診療科ではそういった感染症の治療や予防を行っています。

●診療内容

感染症センターは2003年に本学に新設された新しい診療科で、感染症診療と感染管理を主な業務としています。感染症診療は、入院診療では一類感染症を含むすべての感染症に対応できるように、空気感染対応の一類感染症病床2床を含む14床を独自に有し、一般感染症はもちろんのこと、AIDSをはじめ、輸入感染症や新興・再興感染症まで広く診療に取り組んでおり、第一種感染症指定医療機関として、AIDS中核拠点病院として、そして、日本感染症学会モデル研修施設、環境感染学会認定教育施設として診療・教育・研究でその任を果たしています。 また外来診療では、一般感染症外来以外にワクチン外来や寄生虫外来、HIV感染症外来、呼吸器感染症外来など各種専門外来を整備し、また、2014年から海外渡航者外来を開設し、感染症関連の外来の充実を図っています。もちろん、これ以外に月に100例を超えるコンサルテーション活動を行い、院内全体の感染症の早期治癒による入院期間の短縮や感染症治癒率の向上と予後の改善に貢献しています。

原因微生物が判明しているが治療に難渋しているケースや原因微生物が判明せず治療に難渋しているケース、感染症かどうかが分からず診断に難渋しているケースなどでお困りの場合に当科までご相談ください。
臓器別に管理が必要な場合は、当院の各臓器診療科と調整・相談させていただきます。

●対象疾患

感染症または感染症が疑われる疾患の全ての治療と予防を対象としています。例えば原因微生物が判明しているが治療に難渋しているケースや原因微生物が判明せず治療に難渋しているケース、感染症かどうかが分からず診断に難渋しているケースなどが該当します。また外来患者・入院患者を問いません。当科は感染症病床を有しますので、他の病院から転院していただくことも可能です。またHIV感染症や呼吸器感染症、海外渡航者外来などの専門外来も行っていますので詳しくは外来窓口までお問い合わせください。

●対象治療

重症で全身管理が必要である、あるいは様々な手術やインターベンションが必要な場合は、それぞれ関連する各診療科と協力して治療を行います。

●主な検査

マラリア、デング熱などの血液検査、血液培養検査など

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎診療科と調整のお時間をいただきます。

◎肺結核の患者さんはご予約できませんので、診療科にお問い合わせください。

24 呼吸器外科

●診察科の紹介

私たちは “質の高い外科治療を患者様に提供すること”を目標に掲げ、医療を行っています。肺疾患、縦隔疾患、胸膜疾患など、胸部の疾患に対して手術を行っております。大学病院であることを生かし、呼吸器内科、放射線科などの関連各科とも緊密に連絡を取り、最新の検査で正確な診断のもと安全な手術を提供しています。また、肺の病気は高齢になるほど多くなるため手術を必要とする方も高齢の方が多くなっております。そのため、体の負担をできるだけ軽くする手術（低侵襲手術）を心掛けています。

●診療内容

原発性肺癌、気腫性肺疾患、重症筋無力症、縦隔腫瘍など呼吸器疾患全般について外科診療を行っており、内視鏡（胸腔鏡）手術を積極的に行っています。内視鏡手術は早くから導入しており、麻酔科とも協働し、浸襲の少ない手術・痛くない手術を実践しています。その結果、手術創の縮小、術後疼痛の軽減により、早期離床、早期退院が可能となっています。高齢者に対してはより低侵襲化を図ることを目的として、若年者に対してはより早期の社会復帰を目指すことを目的として胸腔鏡下手術に積極的に取り組んでいます。このような高齢患者では手術後の合併症が問題ですが、鏡視下手術の積極的標準化により手術の低侵襲化を図ることで合併症を減らし早期退院を促進できています。進行肺癌・進行縦隔腫瘍に対しては呼吸器内科・放射線科とチームを組んで化学療法、放射線治療を組み合わせた集学的治療も積極的に行っています。また肺機能の温存を考慮した区域切除などの縮小手術、低肺機能症例に対する手術も安全に施行しています。気道狭窄に対するステント治療もいち早く行っており、状態に応じて最良の治療を目指し、患者様のQOLの向上につとめています。対象となるがんの遺伝子情報によって良好な治療効果が期待できるようになり、遺伝子情報を取り入れた治療も行っています。

●対象疾患

呼吸器外科とは、胸部にあって肺・気管・気管支・縦隔・胸壁・横隔膜などの外科治療を行う診療科です。肺癌やその他の胸部悪性腫瘍から、真菌症などの炎症性肺疾患や、気胸など幅広い疾患の手術を取り扱っています。縦隔の病気や重症筋無力症の手術も呼吸器外科で行います。悪性腫瘍の治療に関しては、胸腔鏡を利用した低侵襲の手術を行い、定型的な手術以外には、気管気管支に発生した難易度の高い手術、大血管切除を伴う侵襲の大きな手術なども行っています。

●対象治療

胸部レントゲン写真で肺に影があったり、胸が痛んだり、息切れや呼吸困難、咳や痰が多い、あるいは血痰がでるなどの症状がある場合には、呼吸器外科に関連する疾患の可能性があります。呼吸器外科のエクスパートが集まっています。侵襲の少ない手術を提供します。　呼吸器内科や放射線治療科医と共同で、最新の、個々の患者さんにあったがん治療を行います。 様々な難治性の病気にも対応いたします。

●主な検査

縦隔鏡、気管支鏡、超音波検査、呼吸器放射線検査

●地域の医療機関の先生方へ

最近の呼吸器外科領域の話題は

1．肺を切除したら呼吸機能がよくなることがある。（肺気腫の患者さんの気腫肺切除の場合）
2．胸腔鏡手術で浸襲の少ない手術・痛くない手術が行え、早期離床、早期退院が可能になり、
　手術後のQOLが向上。薬で効く。（腫瘍に遺伝子異常のある腺癌の患者さんの場合）
3．肺癌が一つの飲み薬で効く。（腫瘍に遺伝子異常のある腺癌の患者さんの場合）
4．ロボット支援手術の拡大。

などがあり、今後も新たな知見が生まれることと思います。
肺癌治療ではより早期の治療が肝心ですので、根治性を考えて、肺癌早期に痛みの少ない手術が一番であり、他の胸部疾患に対しても専門的に治療させていただきますのでご紹介お願い申し上げます。

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎水曜日にご紹介ください。
（木曜日は手術等の関係で、変更をお願いする場合があります）

月	火	水	木	金
		初診担当医	初診担当医	

◎気胸の患者さんで早急に手術が必要な場合は、診療科にお問い合わせください。

34 緩和ケアセンター

●診察科の紹介

緩和ケアとは、病気の経過の中で生じる身体や心のさまざまな苦痛を和らげ、患者の皆様やご家族にとってできるかぎりQOL（quality of life：生活の質）を良好に保つことを目指す医療です。
まだ一般的には誤解されることが多いですが、緩和ケアは「終末期医療」ではなく、診断を受けた時から病状経過のどの時期においても行われる医療です。緩和ケアセンターでは、患者の皆様の痛みやしびれ、倦怠感、呼吸困難などの身体症状や不安や落ち込みなど気持ちのつらさをコントロールしながら、ご自分の考えや生活に合わせた療養の選択、ご自身らしく生きるためのお手伝いをしています。また、患者さんだけでなく家族もケアの対象になります。命にかかわる大きな病気と向きあっているのは患者さんだけでなく家族も同様です。緩和ケアでは、家族・遺族ケアも行っています。
緩和ケアセンターの診療は、緩和ケアの専従医師やがん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師が中心となり、精神科医師や薬剤師、臨床心理士、リハビリテーション技師や管理栄養士など多職種と共に、また放射線治療部門、外来化学療法室、がん相談支援センターや地域医療連携室など関連する部門と連携しながら行っています。

●診療内容

かかりつけの診療科の主治医や看護師と連携しながら、痛みやしびれ、倦怠感、呼吸困難などの身体症状や不眠、不安、抑うつ、せん妄などの精神症状に対する薬物療法を行っています。また、気持ちのつらさに対する心のケアや在宅療養移行への支援、公的サービス、緩和ケア病棟の紹介もしています。その他、がん看護専門看護師や緩和ケア認定看護師による「がん看護外来」も開設しており、患者の皆様やご家族の療養に関する相談、治療の副作用への対処に関する支援などを行っています。

●対象疾患

主にがん患者さんを対象としていますが、がんではない慢性疾患などの方にも対応しております。また、診療を受ける時期は特に決まっておりません。「がんと診断されてから気持ちの落ち込みがつらい」など診断を受けた時期から始めることもありますし、治療中や積極的治療が難しくなってきた時期など様々です。
受診については、まずかかりつけの診療科の主治医にご相談ください。

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎診療科と調整のお時間をいただきます。

35 化学療法外来

●診察科の紹介

薬物によるがん治療である「化学療法」の分野は、従来からの抗がん剤に加え、がん細胞またはその関連物質を狙い撃ちする分子標的治療薬の登場により、治療成績は向上し、さらに治療継続の障害となっていた嘔吐や好中球減少などの重い副作用に対しても有効な支持療法が開発され、著しく進歩しています。 腫瘍センターは、附属病院中央部門として「外来化学療法室」を管理・運営し、必要に応じてがん患者さんの診察ができるよう、外来診察室を備えています。 外来化学療法室では、院内診療科で処方されるすべての外来通院患者さんの点滴・注射による化学療法、および関節リウマチなど自己免疫疾患に対する生物学的製剤の投与を行っています。
患者さんに安全な治療を提供できるよう、化学療法レジメンの監査・管理を行い、調剤（ミキシング）室では入院患者投与分も含めて注射用抗がん剤の処方確認と無菌調剤を行っています。

●診療内容

外来化学療法室で化学療法を受ける患者さんは年々増加し、延べ8,000件を超えています。当センターでは、現在リクライニングチェア18、ベッド8、計26床の専用治療病床に加え、独立した小児専用治療室を設置しています。
各病床には、パーソナルTVモニターを備え、オーディオスピーカーからは耳に心地よいBGMを流しています。また、ご希望によりDVDプレーヤーを貸し出すことができます。
さらに、男女別および多目的トイレ、家族待機場所を設けるなどアメニティーに配慮したゆったりしたスペースとなっています。
外来診療室には診察ブースのほか、落ち着いて患者さんとお話ができる面談室があります。 医療スタッフは、がん薬物療法専門医・指導医を含む専従医師、がん化学療法看護認定看護師を含む専任看護師、がん専門薬剤師を含む専任薬剤師で無菌調剤から薬剤の投与、有害事象の対応、患者ケアならびに指導を行っており、厚生労働省が定める、外来化学療法加算1の施設基準を満たしています。
安全ながん化学療法を推進するため、抗がん剤の曝露対策にも閉鎖式器具導入などで積極的に取り組んでいます。

●対象疾患

外来通院で抗がん剤を点滴・注射投与されるすべての診療科の患者さん（一部自己免疫疾患の生物製剤も含まれます）が当センターでの治療対象となります。
治療に際しては、まず予定される治療内容につき各診療科にて説明を受け、その内容に理解・同意していただくことが必要です。
治療当日は各診療科での診察や血液検査などを経て、治療が可能と判断されましたら当センターにお越しいただきます。
安全性を重視し、処方内容を十分確認したうえで薬剤師が無菌的に調剤し、治療薬投与中は専任の看護師がケアをさせていただき、また投与中の体調不良や副作用発生時には常駐する担当医が診察いたします。
わたくしたちは、充実したアメニティー環境で、質の高い化学療法の提供を目標として、当センターが利用していただく患者さんにとって真の「癒しの空間」となることを目指して日々努力してまいります。

●地域の医療機関の先生方へ

当センターでは通院での点滴・注射治療を有効かつ安全に行うべく、多職種でのチーム医療を提供しております。
外来化学療法室での治療内容については、各（臓器別）診療科外来からのレジメンオーダーを受けて施行しております。
従いまして、治療依頼でのご紹介につきましては、各診療科にご紹介いただきますようよろしくお願い致します。
化学療法外来への診察受診依頼に関しましては、その内容によりますので、まず当院地域連携室にご連絡いただき、ご相談の上ご予約いただければ幸いです。

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎診療科と調整のお時間をいただきます。

36 リウマチセンター

診察科の紹介

近年関節リウマチ治療は、生物学的製剤などの新たな薬物療法の登場に伴い格段に進歩してきました。また高いQOLを目指して手術療法も発展を続けており、より正確な関節の評価、治療が求められるようになってきました。一方で治療法の発展に伴い併存疾患の管理や合併症の予防など、安全性に対する配慮も重要性を増してきました。上記の社会的要請を鑑み、当院では内科と整形外科が連携して総合的な診療にあたることが必要と考え平成23年4月からリウマチセンターを開設し診療を開始しました。

診療内容

日本リウマチ学会認専門医7名（整形外科3名・内科4名。指導医3名、評議員3名含む）が在籍し、外来診療にあたっています。また日本リウマチ学会登録ソノグラファーも3名（整形外科・内科各1名、検査技師1名）在籍し、関節超音波検査を積極的に行い早期診断および病態の正確な評価に努めています。
鑑別困難な症例に対しては生検による病理診断も積極的に行っています。 日本リウマチ財団登録リウマチケア看護師6名が在籍し、リウマチケア看護相談も行っています。

関節リウマチの早期診断や生物学的製剤も中心とした薬物治療は他疾患の除外も含めて専門性が必要です。
関節リウマチや膠原病を疑う場合は地域連携を通じて速やかにご紹介ください。

対象疾患

現在約1800名（関節リウマチ約950名、その他の疾患約850名）の患者様が通院されています。

- 関節リウマチ：診断・評価のために関節超音波検査など画像検査を積極的に行っています。約350名の方が生物学的製剤を使用し治療されています。多疾患の合併例も積極的に受け入れ、より良好なコントロールと高いADLを目指して治療しています。
- その他の疾患：全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、全身性強皮症、多発性筋炎、皮膚筋炎、成人スティル病、リウマチ性多発筋痛症、RS3PE症候群、混合性結合組織病、ベーチェット病、乾癬性関節炎（関節症性乾癬）、強直性脊椎炎、線維筋痛症、多発血管炎性肉芽腫症、再発性多発軟骨炎、IgG4関連疾患、抗リン脂質抗体症候群、遺伝性血管性浮腫、結晶性関節炎（痛風・偽痛風）など。関節リウマチ類縁疾患を含む、膠原病全般にわたり診療しています。

対象治療

- 薬物治療:　関節リウマチや関節症性乾癬などに対しては整形、内科に関わらずすべてのリウマチ診療医がMTXや生物学的製剤による積極的な薬物治療を行います。
- 手術治療: 関節リウマチを中心とした破壊性関節炎に対しては人工関節などの関節再建術を行います。

主な検査

関節超音波検査、関節MRI、滑膜生検など。

地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎医師の指定がない場合は、初診担当医でご予約をお取りします。

月	火	水	木	金
初診担当医	初診担当医 外科担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医

37 乳腺外科

●診察科の紹介

当科では乳房温存手術のほか、形成外科医と連携して乳房再建術によって、根治性はもとより整容性にも配慮した治療に取り組んでおります。
また最近は、遺伝子カウンセリング外来や婦人科医とも連携して遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）の診療にも、対応しております。
進行がんに対しても、抗がん剤治療はもとより内分泌療法や分子標的治療薬さらには放射線治療も併用した集学的治療を行い、より早期の段階から緩和ケア科とも連携し、患者のQOLを重視した治療を行っております。

●診療内容

病院の機能上乳がん健診は行っておりませんが、各種乳腺疾患についてご紹介を頂きましたら、診断から治療まで行っております。
年々増加の一途を辿っており、診療を速やかに行うため、病診・病病連携による乳がん診療連携パスを行っておりますので、ご紹介頂きます先生方におかれましては、ご協力頂きますようよろしくお願いします。

●対象疾患

乳がん
乳腺良性疾患
遺伝性乳がん卵巣がん症候群

●対象治療

乳房腫瘤の良悪性鑑別診断（穿刺吸引細胞診、針生検、マンモトーム生検）

早期乳癌の治療（乳房温存手術、センチネルリンパ節生検、乳房切除術、乳房再建）

進行乳癌に対する術前化学療法

再発乳癌の治療（外来化学療法、疼痛コントロールなどにおける緩和医療チームとの連携）

遺伝性乳癌カウンセリング（遺伝カウンセリング外来・婦人科と連携）

●主な検査

乳房放射線検査（マンモグラフィ）
ステレオガイド下生検
乳房超音波検査（エコー）
乳房造影超音波検査
乳房MRI検査
乳房吸引式針生検検査
乳房針生検検査
穿刺吸引細胞診検査

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎火曜日、水曜日にご紹介ください。

月	火	水	木	金
	初診担当医	初診担当医		

38 糖尿病センター

●診察科の紹介

糖尿病センターは糖尿病の診断と治療および生活習慣の見直しと修正に関する相談を総合的に行っています。糖尿病センターには、医師以外に、看護師、薬剤師、管理栄養士が常駐しており、糖尿病治療のための身体面のケアだけではなく、生活面（食事や運動、お薬や自己注射、など）の相談、および糖尿病に関する心配事の相談などに対応できるようにしています。
また、院内の臨床検査技師および理学療法士にも、血糖測定や運動機能などの相談ができます。

●診療内容

糖尿病の診断と治療および生活習慣の見直しと修正に関する相談の内容を以下に紹介します。
1. 治療：
　1. 食事療法、運動療法：これらは糖尿病治療の基本であり、医師からの説明だけでなく、管理栄養士や看護師から詳しく説明いたします。
　2. 経口血糖降下薬（飲み薬）：食事療法や運動療法だけで血糖コントロールが不十分な方には飲み薬を処方いたします。飲み薬はたくさんの種類があり、それぞれの方の状態に合った薬を選んでいく必要があります。
　3. 注射薬（インスリンやGLP-1アナログ製剤）：1.、2. でも血糖コントロールが不十分な方、あるいは注射薬のほうが好ましい状態の方にお勧めしています。

2. 生活習慣の見直しと修正：看護師、管理栄養士や薬剤師と相談していただくことができます。

●対象疾患

糖尿病

●対象治療

食事・運動・薬物療法の指導，自己血糖測定の指導
インスリン・GLP-1アナログ製剤による治療および自己注射の指導（外来治療可）
インスリンポンプ療法（SAP：パーソナルCGM機能搭載ポンプを含む）
病状に応じて，入院での糖尿病治療・教育を行います．

●主な検査

自己血糖測定
持続血糖モニタリング(CGM)

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎火曜日、水曜日にご紹介ください。

月	火	水	木	金
初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医

◎糖尿病の診療が主である場合は糖尿病センターにご紹介ください。
　症状によって必要があれば、院内の該当する診療科に紹介となることがあります。

◎紹介状に、最近の検査結果を添付してください。

39 形成外科

診療各科のご案内

●診察科の紹介

形成外科は、再建外科と美容外科という二つの部門に分かれます。 再建外科では、生まれつきの異常、顔の骨折を含むけが、良性または悪性のできものを手術した後の欠損、顔面神経麻痺、眼瞼下垂、床ずれやあざといった、外見上の変形（変色）や機能障害、からだの一部の欠損に対する外科治療を行います。
美容外科では、一般的には病気と認められないかたちの変化を外科的に修復して、より美しく、より質の高い生活を送る助けとなることを目標とします。
形成外科・美容外科の間に明瞭な境界があるわけではありませんが、当院では基本的には保険診療内での治療が適切と判断される場合にのみ手術を行っています。

●診療内容

形成外科は、特定の臓器の病気を治療対象とする外科ではなく、全身のあらゆる部位の異常や形態変化を治療対象としています。 皮膚・軟部組織外科分野では腫瘍の切除摘出を行い、植皮や皮弁などを用い組織の再建を行っています。頭蓋顔面外科分野では口唇裂、耳介形態異常、眼瞼先天異常に対し治療を行い、顔面骨骨折に対しても診察治療を行っています。 また他の診療科と多くの境界領域を持っており、当院では耳鼻咽喉科、口腔外科、消化器外科、乳腺外科の腫瘍切除後の組織欠損再建の治療を行うことが多いです。
耳鼻咽喉科、口腔外科領域では舌口腔再建、顔面骨再建、咽頭再建を行い、消化器外科領域では上部消化管再建時の血管吻合を行っています。
乳房の外科は形成外科の一分野ですが、当院では乳腺外科と乳癌に対する一次乳房再建術(一回の手術で乳癌の切除と乳房再建を含む)を行っております。乳房再建にはシリコンインプラントによる人工物再建と有茎・遊離皮弁を使った自家組織による再建法があります。

●対象疾患

横断的な外科治療を行っています。外傷から悪性腫瘍、慢性疾患、先天異常などです。
●皮膚軟部組織外科：皮膚良性腫瘍、基底細胞癌・扁平上皮癌・悪性黒色腫などの皮膚悪性腫瘍、血管腫・血管奇形、熱傷
●頭蓋顎顔面外科：先天性顔面形態異常、眼瞼先天異常、顔面神経麻痺、頭部・顔面・頭頸部再建、顔面骨骨折
●体幹部再建・ブレストサージャリー：胸壁欠損、腹壁欠損、腹壁瘢痕ヘルニア、乳房再建

●対象治療

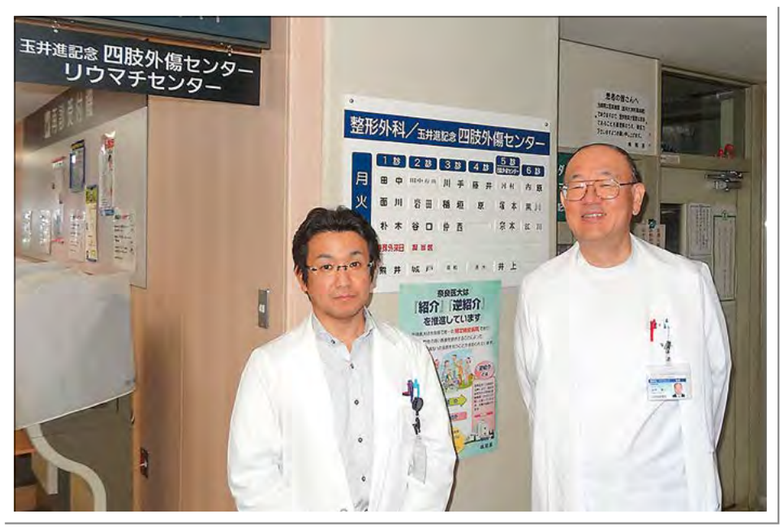
腫瘍の切除摘出
植皮や皮弁などを用いての組織の再建
口唇裂、耳介形態異常、眼瞼先天異常に対する治療
顔面骨折の診察治療
腫瘍切除後の組織欠損再建の治療
舌口腔再建、顔面骨再建、咽頭再建
上部消化管再建時の血管吻合
乳癌に対する一次乳房再建術

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎医師の指定がない場合は、初診担当医でご予約をお取りします。
（医師の指定がある場合は、希望医の外来日をご指定下さい）

月	火	水	木	金
初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医	初診担当医

45 玉井進記念四肢外傷センター



●診察科の紹介

昭和40年に世界で最初に完全切断母指再接着を奈良県立医科大学で成功された玉井進名誉教授の偉業から50周年を記念して、平成28年1月9日より奈良県立医科大学附属病院に玉井進記念四肢外傷センターが開設されました。
四肢外傷の治療は整形外科の専門領域であるため、治療にあたる医師は整形外科専門医を中心に構成しています。

●診療内容

玉井進記念四肢外傷センターでは、玉井進先生が世界に先駆けて開発した手術用顕微鏡下に微小な血管や神経を修復するマイクロサージャリーを用いた専門治療を行うことが可能です。
マイクロサージャリーの技術を用いることにより、切断した指の再接着だけでなく、外傷により欠損した骨や皮膚などの組織を健常部から移植して再建することも可能です。
マイクロサージャリーを必要としない四肢の骨折なども早期の機能回復を目指した最新の治療を行っています。

●対象疾患

切断指、開放骨折、小児骨折などの緊急度の高い四肢外傷を中心に治療を行っていますが、
専門的な知識と技量を必要とする難易度の高い四肢骨折の治療も行います。
また、骨折以外の四肢の腱、筋、血管、末梢神経などの軟部組織損傷の治療も行います。

●対象治療

原則、手術を必要とする疾患の急性期の治療を行います。
術後にリハビリなどが必要な場合には近隣の病院や医院にご紹介します。

●主な検査

レントゲン、ＣＴ、ＭＲＩ、エコーなど

●地域の医療機関の先生方へ

緊急手術が必要な切断指、開放骨折、小児骨折などは随時対応しておりますので、玉井進記念四肢外傷センター外来担当医までご連絡下さい。

●地域医療連携室からのご紹介時のお願い

◎月曜日にご紹介ください。

月	火	水	木	金
初診担当医				